第四百六十六號目次

◎社說
輿論改造の一振作
第一期總撰擧の時の社說

◎隨感
寧爾女生來り學ぶ◎淫猥なる地方には養嗣多し◎近江の國◎天龍寺◎京都の風光◎御所の都◎何さ云へる情懷ぞ◎千代の交情◎心身一致の妙味◎春は枝上に在り◎山師◎仙骨

◎評論
基督教界今後の傳道

◎女學
高等女學校全盛の惡結果
男女相見ゐ鑑識の差　非　華
琉球の女俗

◎教育
人の子を戕ふ者　曲　浦
教育界時言
(慈善事業の取締◎日本人の非日本思想◎我國の價値◎教育界の腐敗◎禮節なき紳士◎新聞紙の無責任◎東京盲啞學校創立以後の成績)
海外教育界

◎雜錄
英國の老偉人
(グラッドストーン氏の逸事)
東京養育院を觀る　長　汀

◎時文
大久保甲東◎豐太閤◎賴山陽

◎片々◎時報

社告

◎本誌は每月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す
◎十日發行の分は稍や簡易實際を專にし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。
◎單に十日發行の分のみを購求せんさ所望せらるものあらば其望に應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金			
壹冊	定價	金拾錢	(內國無郵稅)
半年	前金	金壹圓拾錢	
一年	前金	金貳圓	

代金は凡べて前金の事◎前金切れ候とも御斷無之間は引續き發送するとも可有之事

廣告料		
一行	一回(廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

送金　爲替は東京本鄉駒込郵便支局に宛て小爲替にすべし(郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割增を添ふべし

●相切れ候とも御斷無之間は依然發送致すべく候間爲念申置候也●

明治廿七年二月十九日內務省許可
明治三十一年六月五日印刷
明治三十一年六月六日發行

東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚六百六十番地
發行兼編輯者　巖本善治
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十六番地
印刷者　島保藏
東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
(電話本局十九番)

社告

櫻井成明譯
腓立比物語
正價金二十八錢
郵稅金六錢

橫山雅男著
婚姻論
正價金十二錢
郵稅金四錢

若松賤子譯
小公子
正價金三十五錢
郵稅金八錢

◉前號 五月十日發行第四百六十五號要目◉

無學の過◎永久の身代、長年の壽命◎無用の用◎女房役(おうそむ)◎惡少年の感化事業さ出獄人保護事業◎不器用の上手◎上田宗固の槍(長井金風)◎隨感則七六◎史論片々項◎有感の記(かなしき妻◎哀れなる子◎姑の心◎人の心)鷗◎新體詩二律(花影子)

故若松賤子英文集
巖本嘉志子
正價金六十錢
郵稅金六錢

布川靜淵、故小此木秀野合著
俳諧史傳
正價金二十七錢
郵稅金四錢

故鈴木弘恭述
百人一首講義
正價金二十八錢
郵稅金四錢

同
文法口授
正價金十二錢
郵稅金二錢

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百六拾六號

明治三十一年五月廿五日發兌

社説

輿論改造の一振作

先聖曾て曰く、民をして依らしむるを可とす、知らしむるを不可とすと。これ眞に政道に老練せる慈人の首肯すべき所也。明治維新の改革の寧しろ之と背反せるは如何なる理由ぞ。

蓋し、徳川氏の末路、革命の聲四方に聞え、天下一齊に起つ。固より是れ薩人獻牲の實力其の根柢たりしに由れるは明らかなりと雖ども、他の幾多の俊才之に加合して其の論を精しくし、其の理を正しくし、以て能く政機一轉の大事を成就せしめたるに由る。其の跡に就きて之を觀れば、薩、長、土、肥、其他十數藩の共力の成す所に似たり。所云る輿論の勢力なるものか。此に於てか、『公議』の説現はる。天下靡然として之を可とし、他只だ公議を盡さざるを以て不可とせり。正に是れ其名を神聖にして、其實を衆藩に分つの勢ひより由來せり。況してや、米國、英國の政治を理想として、只管ら外國の制度に倣はんとし、之に倣ふは即はち文明にして之に化するは維新の目的たりしに於てをや。明治六年の民選議院論、明治十三年の國會開設請願、明治二十二年に於て煥發せし春畝大勳位が憲法制定の大功名も、必竟は此の勢趣の一脈にして、詮ずる所、流行の餘波に過ぎず。觀じ去り觀じ來るの哲士あらば、抑も其の動元を何人の功に歸せんとすらん。

斯の如くして、二十三年の國會は初めて開設せられ、十年準備の大舞臺は正に幔幕を切落せり。看客の人氣非凡にして、多くは素晴らしき活劇やあらんと待望めり。抑も、多數の人によりて撰擧せられたる多數の人に、卓論あらんことを期圖するは、初めより愚なり。此の愚に合はんことを期企するの論客も亦た難からずや。惟ふに、哲人は初めより國會なるものに

重きを措かざりしなるべし。

然りと雖ども、流行は其の曲所に達する迄は勢ひを失ふとなし。本來價値なかるべき國會も、人氣に乘じて滿風に走り、白帆多少の航路を進みて、而して漸くにして失望を招けり。失望の聲は啻に看客より發するのみならず、場內の役者も、一二演劇の后、既に職を辭せるあり。斯の如くして、年々不評判を來し、帝國議會の面目は既に數年前に一變せり。

蓋し、之によりて政治を改良せんと欲せしものは、夙に絶望したり。只だ、年來の行掛りと、黨派の交際と、他に得らるべき諸種の利益の段梯として則はち倘ほ之に附くものあるのみ。誰か今に方りて倘ほ之によつて政治を改善せんとを期せんや。蓋し或ひは之れあらん、但だ能く實驗老練したるものは、則はち既に其非を衷心に開悟せしや必せり。

此に於てか、輿論改造、撰擧法、改正等の究説を聞く。爰に、憲法制定と撰擧法立案との名譽を擔ひたる相公は、當に老勇一番の振作を了して、前の見込違ひの修正を遂ぐべき也。此に於てか、今や撰擧法改正の議あり。

惟ふに、此案の通過すべきや否やは、暫らく黨人の自由に任するも、所詮は一二年の內に此類の改正は行はるゝなるべし。之れ切めてもの救治策なれば也。

二

嗚呼、撰擧法を不可なりとして則はち之を改正せんとし、議員を不足なりとして則はち亦た之を改良せんとす。百歩を以て五十歩を笑ふ、稍や進みたるに相違なしとするも、倘ほ痴たるとを免かれず。たとひ、之を如何に改正すとも、此般の制度によりて、則はち理想政治を成就せんとするに至りては、倘ほ及ばざるに等し。若し能く政治の實相を觀じなば、撰擧者の五十万人たると二百万人たると、議員の三百人なると、四百人なるとに左したる相違なきとを發見すべし。既に相違なきとを知りて而して衆人の希望するまゝに之を改正するは、或ひは可なり。但だ夫れ此の事を大事として、大事則はち之によりて成ると思惟せんとする者に至りては、吾人は之を高遠の士と爲さず。

嗚呼、政的天才何處にある。單に制法の改造に心志を正きにし、拘々として之に時日を寄す。大事遠く去り、大機近く逸して、而して顧りみず。晏如として舟中論語を講ず、寧しろ政治學者の痴態にあらずや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

然りと雖ども、罪を撰擧法の不完全に歸して、之を改良するを希望とし、希望、前にかゝり、理想、一歩を進みて、而して人氣少しく振作し、但だ此の一事を望むまゝに政治改良に失望の聲稍や平らぐことを得んか。然らば是れ今の政客をして依らしむるの道なり、知らしむるの方にあらず。蓋し或ひは、斯の如くして、其の喪心を起さしむ、寧ろ之を可なりとせん耳。

第一期總撰擧の時の社說

政黨以外に超然たらんと云ふものはあれど、撰擧競爭の外に超然たらんと云ふものは極めて稀なり。今に於て吾人が此事を勸告するは、寧ろ迂僻の誹を蒙むるのみにして毫も其益あらざる歟。然りと云へども吾人が平素に於て信奉する所の主義を以て之を考ふる時は、世の同胞が今の如くに狂奔するは無上の拙愚なりと見ゆる也。而して其の自から賢しこしとする所は非常の馬鹿らしき所なるを、承知するなり。故に一應は思ふ所を陳ぜざるを得ず。一應の陳辯聽かれずと云へ共、尙ほ再應論述する所なかる可らず。

四方の通信に據る時は、撰擧候補者の多數は既に發狂したる計りに見ゆるなり。左なくては迚も聞くが如き不埒なる事を行ひ得まじくと信ぜらるゝ也。或る者は金を散じて民心を買ひ、或者は慈善を賣りて人望を買ひ、或者は小册子に贈物を添へて己れを撰擧するの方法を打合せ、或者は反對者に無き汚名を着せて自からを高くせんとし、或者は投票買收の直段を取極め、或者は自撰投票の用意を爲し、或者はステッキを振ひ、或者は小作人を嚇し、或者は貧財者を驚ろかし、凡そ强迫壓制の手段として試みざる者なし。又或者は僞信徒となりて佛法を信じ神道に入り、或者は基督敎を棄て、頓かに權門に媚を呈し、下の者に腰を低くゝし、海老の如に上下に曲りて此の三週間は乞食をするの覺悟を爲せり。而して三週間後には議員となりて一國の大政を料理せんと云ふ也。さて〳〵大日本帝國の不幸も極まると云ふべき哉。

如此き人物に向つて、議員となるとの甚はだ大切なる所以を說法すとも分かるとなけん。故に只だ議員となるとの損多くして得少きとを吹聽すべし。蓋し損多くして得少なしと聽く時は、彼等は早々に考へ直す所ある可きがゆゑ也。思ふに彼の人々は、議員となるとを以て名聲多きと思へるならん。勿論大したる不名譽のとにはあるまじきが、去りとて之に依りて新たに名譽を增すともあるまじ。察するに彼等は日本の議會を以て英國米國の議事院の如くに思ふならんか、成程其の益のなき所は彼にもあるべく亦我にもあるべしと云へども、其益なる所にして彼に在るが如きことは必らずしも我には在るなき也。今日議員未定の內には樣々の想像もするなれ、一旦確定して上下兩院に定數の議員を出したるの曉には、彼の造屋吝平と云ひ、分らずやの戶長さんと云ひ、借金多の郡長と云ひ、不道德の某官員と云ひ、隣の代言人と云ひ、どこ〳〵の新聞屋と云ひ、大抵名の聞えて餘り面白からずに覺え居りたる人物が集まりたるに過ぎず。馬子に衣裳を着するも依然として馬子なり。彼等が從前に異なる所は議員と云へる名を冠むりたる丈けにて其外に別條あるなし。故に議員と云ふ二字を冠むりたりと云ふとを引去る時は、彼等が人物に價の上りたるにもあらず。此等の人物は平素左程尊ばれたるとなし、然るに其人物等が集まりたりとて別に議會の價格の騰貴すべき理由もあらざる也。故に今に於て想像する時は議員となるとを以て大層の名譽を得ると思ふべけれど、既に議員となり了りたるの日には身に一段の加ふる所もなきとを悟るべし。實證彼の府縣會議員に於て屢々たり。議員となりて名譽ある人は議員とならざるも名譽あるの人なり。議員とならずして既に名譽あるの人は議員となりて後も新たに議員たるの名譽を加ふべし。然らずして無理に議會に入り込み、討論の際いつも贊成とか同意とか述べ、肝腎の時に居眠りを爲し、忽然目を覺して只だ手を擧る丈けの事にては、議員と爲りしとが其人に取りて名譽を加へざる耳な

らず反つて彼は其の不器量を世間に廣告するに似たり。彼もし隱れて居たらんには其評判もあらざるべきに、偶ま分外の地位に登りたるが故に其不適任の事を自から吹聽するとさなれり。金を使ひ時を費やし辛うじて議員となりて其の力量なきとを廣告するに至つては不愍、此上なしと云ふべし。喩へば辛苦困難して、高き臺に登り、ラッパを吹立て、「己は如此く馬鹿なり」と言ふに均し。之れ豈に彼が爲めに名譽ならん哉。

議員となると旣に名譽を加へず、金の點に於ても益する所决して無し。月數十圓の月給は多きやうなれども、之が爲に樣々の交際を增し殊に開會中東京にある間だに倍多の入費を消散すべし、經濟上得あるにもあらざる也。議員となるは旣に名譽を增さず、金を加ふるとなし、世間幾多の狂奔者は抑そも何を求めんとして騷亂するぞ。

然れども第一回の議員には成るべく好き人物を出したし、之に付きて盡力するは勿論の事なり、左れど好き人物は自から廣告せずとも評判は常に彼に尾して隨伴し來る也。亦撰擧人も銘々正當の投票を爲さずんばある可らず。被撰擧者は靜默して天の命を待ち、撰擧者は沈思熟考して其尤も尊崇する人物を擧ぐべし。斯くして初めて眞の議員を得べく、眞の議員にして初めて議員たるの益を受くべし。ジョン、ハリファックスは最初宿無しに非ずや、然れども自尊揭々、斷言して云く、

個々の撰擧人が眞實の投票を爲し、自己の力量が正當に見認められて撰擧せらるゝ迄、决して國會議員とはならじ。

之れ豈に堂々たる政海の大丈夫に非ずや。程伊川云く、君子の時を需や安靜にして自ら守る、志し須とありと云へども恬然として將に身を終んとするが如し、進まずして志動くものは地常を安んずると能はざる也。と願はくは政海に君子あれ、大丈夫あれ、君子大丈夫にして初めて一國の政を議すべし。吾人が如此く勸告するは戰國に仁義を說くに似たらん、然れども仁義に非ずば遂に戰國を一統長撫すると能わざるにあらずや。吾人が如此き勸告は炎熱の地に水を播くに均し、爲めに涼氣を生すると幾干もなしと云へども、然れども尙常に水を播かざる可らず。何んとなれば異日同志者續々起り立ちて之を與にするに於ては、全地を涼しくすると亦難からざるが故也。

（明治二十三年五月）

隨感

○臺灣女生來り學ぶ

女生二人、臺南より來り學ぶ。われ先づ日本服二揃を仕立てしめ、行きて豐前の國に之に會ふ。風格骨相など如何あらんと樣々に掛念し、幾多の想像を懷きて初めて其の面を見る。今后數年、若くは、恐らく、又望むらく、大抵其の一生を托せらるべしと思へば、心先づ躍りて只管らにゆかしうはありける。彼等は日本服を最と珍らしげに受取り、綿布を錦繡の如くに取扱ひ、就中、唐縮緬の紅き帶を此上なきものと思ひけり。翌々日、彼等は臺灣土人の服を脫却し、昨日の日本服を着用して、意氣頗ぶる驕れり。其心、綾羅を着たらんが如く感ぜしなるべし。乃はち伴ひて汽車に乘り、一二停車場を過しとき、何人の親子なるらん、今日を晴れと着飾り、丁稚、下女を從がへ、ゾロ〳〵として入り來り、中にも十一二と見ゆる愛らしき少女は、吾等に傍ひて腰うちかけぬ。其

衣裳すべて美を盡し、華麗燦爛たり、裱布の模樣ことに麗はしく、紫の房、双の胸の邊りに掛れり。吾が女生は羨望禁ぜざるものゝ如く、忽ち腕を伸べて、彼の紫の房に手を觸れんとせり。われ之を制し乍ら心中あはれに感じ、胸に切まる心地しけり。少時くして、絃聲後方に起る。反顧すれば、十二三歲の村童と見ゆるが、琵琶を奏するなり。絃聲調を爲さゞれど、歌ふ聲に一種の抑揚あり、人をして意はず耳を傾むけしむ。况んや、風貌尋常ならず、愁色面にあり、隻脚傷つきて跛となれるが如きをや。われ、傍人に對ひて彼何者ぞと問へば、傍人造作なく答へて曰く、彼は此邊りの農家の兒なり、去年誤つて汽車に足を敷かれ、生れもつかぬ不具となれり、之より琵琶を學びて日々汽車々中の客に錢を乞ふと。余聞きて感動し、招きて吾等が傍らに倚らしめ、少しく多くを與へて琵琶を奏せしむ。彼、奇聲を發して高く歌ひ、撥音早急にして、無造作に奏し了る。彼は未だ其身の不幸をかこつほどの年柄にはあらず。假令ひ一時はかこちたりとも今將た之に慣れたるべし。彼は眞に無邪氣なる音樂者なり。左れど、眉間憂色存し、相貌薄命の氣あり、寧ろ其の高らかに歌ふを聞けば、余が恨思激越す。顏を反けて密かに滿眼を拭ひ、首を垂れて胸中の波濤を抑ふ。傍人、吾等が爲めに叱して曰く、何んぞ多く歌はざるやと。彼復たび琵琶を奏す、其歌亦た前と異なるなし。傍人反つて罵しらんとす。余制めて曰く、あゝ〳〵彼は未だ他の曲を學ばざる也と。蓋し、文明の德、蠻地の人をして學に就かしめ、文明の器械、誤まつて健康の人を傷つく。美は之を樂しむべく、亦た羨やむべし。人生の思欲畢竟如何んかして平かなる。大人は小兒の如く、小兒も亦た大人にひとし。余、默想良や久うして、深く世道人心の波瀾を念じぬ。

○淫猥の地方には養嗣多し

家に財を積みて子孫の爲に堅牢を計らんと欲せば、先づ其の財を積むの手段を堅牢にせざる可らず。僥倖にして獲たる金錢は、子孫亦た僥倖に依らんとして之を失ひ、相場に於て攫したる錢は、子孫また相場によりて一擲するとおり。照應の規律嚴かにして、天法久しき間だに發揮す。人の拙劣なる周旋をもて此の廻轉を止めんことは難し。左れば猥褻の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

營業にて利益したらんものが、其子孫の亦た淫遊して遂に之を蕩盡するに至らんは必然の數なり。一家の經驗既に久しく然り、一地方興廢の事も亦た所詮は此の數を免かる可らずと知ることを要す。公娼を滅せんとするに當りて、其の地方の人々の憂慮するは、之より不景氣を來さんと云ふにあれど、抑も、公娼によりて賑ひたる地方の富は、宛から腐れたる水の溜りしが如し。此の畜積によりて永久の正利を起さんとするは甚だ難し。苟くも、正直健全なる營業にて公益を計りたる地方にあらずば、長久巨大の富を起したるもの未だ嘗てあらず。曩に長崎に遊び、近頃馬關に留まり、更めて切りに此の天理の嚴明なるに感慨す。看よ、此の般、地方の人の子の如何に放埒なるかを。年少子弟大寧ね樓に上らざるはなし、父兄其の子の爲に憂ひざるもの殆んど稀なり。彼等は、不潔なる賑ひを以て其の地方の富を招き、其子の之に遊興するをもて家の富を壞つ、愚も亦た太甚しからずや。此を以て、斯る地方にて名望あり識見ある確實の人才は、大抵他地方より移住し、もしくは他地方より貰はれて養嗣となりたるものなり。之よりして、此の般の地方に養子を迎ふると一般の流行となり、正しく嫡男あるの家すら尚ほ其の姉妹に婿を擇ぶ、風俗の由來する所頗ぶる妙を得たりと知る。夫れ、家を續け、財を遺す、何んぞ必らずしも其の血屬の子を主とすることを要せんや。左れど、彼等は素と此の志望をもて拮据して產を積み、而して遂に之を他人の子に委托する也。其希望の因緣よりして考ふれば亦た不愍ならずや。鼬鼠、死鼠を集めて丘をつくり、久しうして忘れ、遂に貂の爲に奪はる。人間亦た可憐の痴態に忙はしきものかな。長崎の寶物は、玄宗皇帝が比翼連理の枕なり。馬關の奇談は、妓樓の仲居等が大臣に年始狀を送るにあり。人もし此般放蕩の地の舊家か、如何に屢ば其の相續人の血を變ふるかに視察して、彼等の家は事實に於て既に幾度か破滅せし所以を悟れ。天理安くんぞ之を忽諸にすることを得んや。

○近江の國

到る處、經濟界の危機切迫せることを聞く。獨り、近江の國に關しては、左の報道を得たり、

經濟界の不振は如何に富國の聞えある近江と雖も又免れざ

るべしとは吾人の豫想せし處なるに之を當局者に質し往て實際に査察すれば事實全く然らざるものあり縣下二十有餘の銀行に於ける小口、當座、定期の預金及貯金を累計せば約四百五十萬圓に近く餘剩資金の京阪地方に融通せらるゝもの一百五十萬圓に上れり勢ひ斯くの如くなるを以て金融の情況は頗る緩和に、日歩も三錢一厘を最高となせり全國各地到る處秋風寂寞の感なき能はざる時に於て近江の經濟界は單り春風和煦の觀を呈せるを見る而して縣民が國債證券を有するもの記名、無記名を合すれば九百萬圓又有價證券も少からずして日本銀行の株券のみに就て見るも六千三百五十餘株、即、現今の時價に積算せば二百三十七萬餘圓の巨額に上れり其他鐵道、會社、銀行等諸種株券の多きも亦知るに難からざるものあり、若本年の米麥作、及養蠶製茶の成績をして良好ならしめば富める近江の縣民は更に一段富の程度を高むること吾人の疑はざる處なり。

又之を近江商人に聞く。吾等もと格段の暴利を貪ぼるものにあらねど、近來の景氣は、吾等を驅つて存外の大利を得せしむ、尤も確實なる擔保をもて莫大の利子を拂ひ、万謝して借用せらるゝ人引も切らず、勢ひ吾等の手元に巨多の利益を推付けらるゝを如何にせん、本來冥利惡しきとと知れども現狀は則ち斯の如し。此等の紳商は平生吾等をもて極めて保守因循なるものとして擯斥せられし人々なるが、左あらん程には、かねて逆境に對しての用意もある可けんに、近日狂奔の狀態眞に笑止の極なりと。

○天龍寺

京都天龍寺に岱山和尙を訪ふ。嵐山の綠葉、滴たる狀にて簷端にあり、連峯宛がら屛風の如し。寺内の松林亦た幽邃にして、常に清嵐を絕たず。談餘、釜の音を聞き、水を注いで松風を聞く、清話半日、興悠々として盡きず。和尙年尙ほ壯んにして、其語太はだ老健。偶たま某氏を評して曰く、彼未だ徹底せざるものあらん。其の小事に拙なきを以てなり、人もし決心せば、匹夫も尙ほ大事を成すに足らん耳と。是れ實に老功の人の能く看破する所。

○京都の風光

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一夜、東山公園に遊ぶ。電燈新緑に映じて青きと一段、路上、電光に照りて白きと一段、東山影黒く平穩として眼前に横はる、池水は妙に靜かに、芝生は清らかに整ひ、所々、鳥居立ち、宮居の樣、風致を極む。余は嗟歎して曰く、嗚呼何んぞ古雅、御所の御園に似たる。之を以て東都の公園に比せんか、相違ふ幾何ぞ。尚武は蓋し關東の物なるべし、優雅にして優美なると、夫れ何れの地か能く之に及ぶあらんと。

○御所の都

今にして京女の固有の結髪を見んと容易ならず、よくも斯く東京風に變りしとの速かなるや。疏水の發電工事今や成就し、之より續々として工場を見ん。細くして奥まりたる暗き屋に手細工せし京女の白き指も、大方は器械工場のガラス窓の内に運轉やしぬらん。京都の風光大いに變ずべしと人も我も思へど、黑煙を吐く煙突は將來といへども多からじ。美人の顔ばせの白きは、久しく衰へじ。四面の山は万古動かじ。月々日々の種々の祭は、外敎の故にとて亡ぶるものにあらず。千年の歷史長久にあり、百代の風景容易に變らじ。惟ふに、西京は尚ほ久しく古御所の舊都たる名譽を失ふとあらざるべし。

○何と云へる情懷ぞ

心に思ふ事あれば、事々に彼の事を想ひ起し、心に思ふ人あれば、物々に彼の人を念じ出す。風景の麗はしきには、相語らましく、月下のさびしきには、我が影を顧みる。山路に來て、小さき花を摘み、口つけて物言はんとし、小流に髪を調へて、鳥の歌ふにさと顔あからむ。一陣の風起り、木の葉飛んで相追ひ、相もつれ、遂に抱きて落ち則ち靜かなり。松葉緑々として色をかへず、葛に纒はせて泰然自若たり、妙に雨蔽ひもして、但だ露の滴たりを落す。其邊りに松茸の簇がり出づる香ひす。時に嗟歎して、西山を望み、亦た徒爾として東山を望む。白雲漠々、去來常なし、山影、長く亦た短かく、地に畵がきて休めず。久しく書信を廢して、情を消さんとすれば、あやにくに涙あり、獨り沈吟して夜々靜かに夢みんとを樂しむなど言ふ人もあらん哉。年少きも、少からざるも、惣じて一と度は此般の經驗あるべし。而して后ち人は

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

優しく、之よりして物の哀を知り初むるなりけり。

○千代の交情

煩惱拂ひがたく、執着散らしがたし。十方皆空の觀念せばやと勤行するに、我心承引せず、去るにても弱き我身かなと自から鞭うつに、泪潸然として獨り泣く。聖者の御敎をかしこみ、上人の説法をつゝしみて、浮雲の明月を輝らさばやとする夜な〳〵、驟雨俄かに至りて、只だ袂をぬらす。夫れ、斯かる苦悶を脱却して、一と度び眞如の光明に接し、遍照の明理に見とれて万法歸一の眞諦に悟り、而して后ち感謝し、而して后ち讃美し、而して后ちあらゆる人の戀しくて、戀しき中に慈愛大悲の心根の滿ちなん后にこそ、戀と云ふものゝ樂しみも、終りも、遂げらるるにてありけれ。落花に死別を念じ、去來に生別を歎き、躰を合せて尙ほ離るるともやあると憂ひなん折にこそ、戀は只だ〳〵苦しきものにてあるべけれ。語を寄す、可憐多恨の男女。海よりも深かるべき其の情と、峯よりも固かるべき其の執心とをもて、必らず長久の交らひを遂げんと欲せば、請ふ先づ宗敎に心を寄せ、同に信じて而して后ち互ひに愛戀すべし。左なくんば、相ひ樂しみて幾千代の望を滿足せしむるとはあり得まじきものぞ。

○心身一致の妙味

近年醫術の進歩驚ろくべきものあり、就中、外科施術の巧妙なるを多とす。ひとり内科の治療に至りて、單に純然として身躰の理にのみ、拘泥し、人の靈覺を念とせざるの趣きあるは惜しむべし。惟ふに西洋醫術尙ほ東洋流とならんには、遂に亦た此邊の調和もあるべけれど、今の儘にして宗敎の素養あつき人などに滿足せしめんとは難かるべし。面壁九年の禪に運動を要せず信念堅固なる人に神經の藥は入用ならじ。いつ迄も、ソップ、牛乳、運動の説にのみ拘りては、達人の笑を買はざらんとするも得ず。敎育の事亦た然り。頻々として只だ學科の説を聞き、次に亦た躰育の説を聞く。躰育の説としても、單に筋肉を勞するの謂なり。所謂る躰より練入して心意に化せしむるの説に至りては、闃として聞ず。躰育論の尤も拙劣なるもの也。嗚呼、邦人宗敎的趣味の涵養も亦た衰へたる哉。

○春は枝上にあり

人苟くも大勢を觀ずることを怠たる可らず。勢は人世の季候なれば也。人もし此の寒暖を悟らざれば、人爲惣べて破る。たとへば、冬に種まき、春に取入するの愚に似たらん歟。然りと雖ども、大勢を見る、容易ならず。もと容易ならざるにあらねど、人、故さらに有心私意を弄して、自から其の眼識を暗くするのみ。故に、達人は言ふ、窓を窺はずして天文を觀、戶を出でずして天下を知ると、豈に空論ならんや。昔し、明眼禪師、暗室に籠居して、未來を談ず、人の來訪より、年の豐凶に至る迄、着々として中る。禪師曰く、佛性は不生にして靈妙なり、万事透徹の明眼自からにして開くと。亦た此の謂なり。今人忙々焉として奔走し、絕叫して時勢々々と言ふ。而も、其の時勢なるものは、渠が私利の關係せる區域の盛衰のみ。別に杳として天地のあるあり、宏大にして自由なるを知らず。古人、春を尋ね、玉馬金鞍に跨がりて出づ、一鞭を下して山野原頭を長驅し、至る所、春を尋ねて春を見ず。悄然として家に還る。家に窓外に梅一枝あり、一枝、春を含みて蕾まさに破れんとし、則はち春の既に頭上に來れるを知らざりき。嗚呼、今人の所云る大勢なるもの遂に亦た此の類にあらずや。夫れ、私心あるもの安くんぞ大勢を知らん。成敗を念ふもの安くんぞ大勢を知らん　草木、成るを必せず、故に能く春秋を知る。人の痴や亦た太甚しからずや。

○山師

昔し、平賀源內にてやありけん、智慧なきもの智慧ある人を見れば、山師、山師と云ふと罵しりけるが、不幸にして、あまり智慧なき人が山師めきたる仕事のみするこそ片腹痛けれ。黑田如水の言ひけん如く、世には、雪駄片足、下駄片足と云ふことのあり、機を失しても石橋を渡ると云ふは、實は堅固ならぬことゆゑ、ある時は水火に投ずるの機變も亦た無るべからず。左れど此は變にして常にあらず、常には周密堅牢の心得を存し、質實誠朴にして用意確乎たる後にこそ、突作の機會に非常猛烈の活殺も施こすべきなれ。今の薄らかなる山師は、弱行薄志にして、最初より忍耐なく經綸なし、一時の坐興に分外の希望を起し、周旋奔走して自から命に疲れ、久しから

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ずして倒る、其の狀態の憫れむべきと如何斗りぞや。凡そ、山師たらんほどの人は、豐太閤類似の氣宇と明敏となかる可らず。家康の老功を以てして、飜然として豐公と表裏し、尤とも名分節義を重んじ、堅固長久の大策を決し、循々として久しく倦まざりき。嗚呼、今の山師流に今少し智慧のありたれば、兎に角、其の大抵は、只だ正直一徹の勞力して、少しづつなりとも貯畜せし方の遙かに優りけんものを。

○仙骨

無用の用を辨ぜずば、有用の用は其の用を成さず。今の風、あまりに功利に忙がはしく、只だ一向に速成を望むが故に、事遂に成らず。成らざるに成さんとす是れ多くは喪心落膽して早世する所以なり。人苟くも高踏超脫の氣韻あらざれば、事に臨みて斬然として成すあるは少なし。人世事繁し、平常の間に氣力を消失して、遂に大機に臨みて如何せんとはするや。今人、仙骨乏しく、今代、仙逸少なし。願はくは、世上悠々たる道家の徒を見ると更に多からん哉。淵明歌つて曰く、開荒南野際、守拙歸田園、方宅十餘畝、草屋八九間。

評論

基督教界 今後の傳道法

◎宗教……就中、基督教を需要する聲の切なると、今日の如く隆んなるは寧しろ珍らしい程である。然るに、基督教界は萎靡として振はず、敎會堂の人影日々に減じ、殆んど匙を投げて失望せんとするに至る牧師の段々多くなるは何故乎。少しく異樣に見える。然し再考すれば、之は當然の運命で、數年前から夙に識者の豫想した所である。

◎今の基督新敎の傳道法は、もと舊敎に反對して改革を起さうとした時の筆法であるから、一時、人氣を引起す演說法の手段としては有効であらうが、人の宗敎心を常久に滿足させるには甚はだ不足だ。言はば書生流の傳道法で、少しも高尙な有難味が無い。中にも、我國のプロテスタントは取分けの殺風景で、其の會堂などは殆んど寺院とは思はれぬ。又、寺院と思はれぬやうに、わざ〳〵心配した人々もある程ゆゑ、

一時の流行が去つて、平穏尋常なる宗教的渇仰心が起り來る比ほひに至り、其の教會に不滿足を感ずるは當然の事である。今の教會堂に出席せぬは、一つは信仰の冷却したるにも由ることであらうが、他の一つは、其の殺風景なるを嫌ひ、寧ろ忌に感じて遠ざかるものもあるからです。

◎天主教に致せ、佛教に致せ、久しく人心を維いで、斷えず其の宗教心を滿足させる法方は古今東西一徹である。之は人の渇仰心の常態であると認めて、其工夫を運らさねば成らぬに、單に一時の變態を見て千古の規則の如く誤解するは惜しむべきことである。必竟、當座の興に乘つて暫時の勢ほひに醉ふたと云ふて宜しい。吾輩思ふに、今の新教の如き殺風景の方法にては、到底長く其の教會を盛んにすることも出來ず、よし出來ても只だ一時の事で、一寸との間の勢ほひが去れば復た直ちに元の如くになる。なか／＼此の樣な傳道法を以てしては、迚も眞宗などの洪大なる組織に代ることは出來まいと考へる。

◎固より、佛教にも色々の宗派があつて、宗派に隨がひ傳道の方法も違ふ。夫を、何れが優る劣ると云ふことは暫らく言はぬ。但だかやうに色々の傳道法があるゆゑ、又いろ／＼の人が信者になるので、即はち人の機根趣好につれて思ひ／＼の宗派の方に引付らるるのである。佛教と云ふ全躰の上から見れば、之が甚はだ宜しい。然し、新教には色々宗派と云ふものもあるが、其の傳道法は大抵一徹で、中にも日本にある新教などは、何れも皆な千篇一律、丸で悉皆同一模範で、もし之に違へば直ちに信仰を落したか、異端かと言はれる程だ。此邊はまだ經驗が新らしい故でもあらうが、隨分幼稚極まることである。傳道の精神熱情に於ては、日本の耶蘇教は佛教に優る。傳道の法方と老練とに於ては、日本の佛教は耶蘇教に優ると言ふて宜しい。

◎其處で、方法などの事は餘り言ひたくは思はぬ、其人存して活方となり、其人なくば死法となることゆゑ、方法を彼此と言ふは末の事であるが、然し決して疎そかには出來ぬもので、まして、今ま新教の人々が、意氣消沈せるは偏へに方法を誤まつて居る所に元因することも少なからぬやうなれば、不肖を顧みず、近年數ば愚案の傳道法を申したことである。

◎夫は今更ら新らしいことでない、新らしいことは續くものでな

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

い、千古在來の方法で、即はち、日本人が古しから行つて居る所の方法である。夫は何かと言ふに、會堂は寺院殿堂となして禮拜を第一とし、時々參詣にゆくのである。之に附屬して教師牧師も居るべきだが、其の役目は、今日の如く演說說教を第一とせず、衆に代つての禮拜を第一とし、其他は、人を銘々に教へ、慰さめ、勵まし、又、折々講釋でもするのである。而して、信者同士の交際は、迚も兄弟姉妹などの關係でゆくものでない、之は人數の少ない時か、迫害の多い時か極の初めに丈け行われるとであるから、斯樣な理想を空想として教會の仕組を立てゝは成らぬ。信者同士はお互ひに顏を知らぬと云ふほどに多くなるのが宜しい。既に斯樣になれば、毎週一同參詣するものもあらうし、月に一度しか參詣せぬものもあらふし、中には半年に一度より來ぬものもあらうが、夫で信仰の厚薄を評するやうな流行をさせては成らぬ。今日の牧師は、其の教會堂を唯一の天堂のやうに謂ひ做し(然も心には思い做すに非ず)之に來る來らぬを以て信の厚薄を評し、教の盛衰を言ふゆゑ、あのやうに窮屈なのである。之は、極々教が小さい時の話しで、今の如く盛んにならんとする耶蘇教に對して、コンナ規摸の小さいとでは迚も日本を救ふとが出來ぬ。やゝともすれば、信者は少くとも宜しい、初代の信仰には正統純粋のものを植て置ねば成らぬなどと言ふ人があるが、夫は議論丈けの事で、其人の實際に仕て居るとと丸で違ふ。第一、其人自身の信仰が純粋でない。もしも左樣に希ふならば、已れ唯一人でも善いと云ふ大決心で、山の中に獨座しても、信仰は十分にするが善いのに、矢張り心には半熟の信者でも澤山に欲しいと云ふ工合で狂奔して居る。丸で、自分が躬行實踐の出家ぬ議論をやつて、一時好都合な辨解を仕て居るのである。

◎扨て、教會は、そのやうであつて、信者銘々の家には、一種の神壇を造るが善い。神棚や、佛壇とは違ふても、其の趣むきは矢張り之に似たるものを、家ごとに造り、家族其の前に集つて禮拜祈禱するが宜しい。其の神壇の内には、十字架なり、畫像なりを置くが宜しい。之を偶像だなどと言ふて八釜しく斥るのは詰らぬとである。人間の信仰に、何れか一種の偶像を置かざるものがあらう。偶像でさへあれば善いのが、偶像でなく、本躰とするやうになつて狹くなるのが惡るい。然

夫を救ふの方は別にある。何時も偶像を造らぬと云ふのではない。其の弊を救はんが爲に時としては偶像を毀つ。ルーオルなどは即はち夫れで、之を佛教で言へば、佛像を火いたり之に尿したなどと同じ精神である。然し之は一時の救濟手段で、變である。平常は矢張り、像を安置して置くより外に好い方法はない。

◎吾輩の考では、凡そ斯る方法を以て、日本の耶蘇敎信徒を非常に多くしたい。ドシ／＼洗禮を授けて、可成く多く爲たい。殆んど麥と稗とを區別する暇がない。稗でも悪草よりは何だ善いと思ふが宜しい。而して、別に高尚超脫の信徒を養ひ、神理の奧妙を極むるなどは、更に別個の傳道策として施こすが善いので、之は亦た忽諸にすべきでない。然し、此にのみ拘はり、（否な此にのみ拘らば未だ宜しいが、何れ着かずの不決心なぞで、たゞ精神萎靡して居るのが如何にも詰らぬ）日本を速かに基督敎國とすると云ふ氣慨の足りぬのが如何にも殘念である。耶蘇敎を以て速に今の眞宗に代へて仕舞ふほどに盛んにせねば成らぬと思ふて居る。今や、全國の形勢は、非常に耶蘇敎を求めて居る、然るに耶蘇敎は譯も分らぬ固陋の事を言ひ、夫も左程熱心でもなく、小さい蠑螺が化石したるやうになつて、人の這入ることも出來ぬ樣にして居つて、夫れで之が万民の救ひであると云ふのは如何にも聞こえない。夫も、自から信じて確乎として居ればまだ宜しいが、大抵皆な中心に失望して、コノ先きどうなるとかと心配し、段々敎會の人の減るのを見て、落胆し、遂に商賣換をして衣の代りに前垂をかけると云ふ人のみが多くなると云ふのは、何たるとか。必竟、宗敎界の常識がなく、宗敎界の時勢を知らず、單に無益な失望をして居るからであると思ふ。

女學

高等女學校全盛の惡結果

高等女學校全盛の時代來らんと言ひつゝありし數年は正に經過し、今や現に其の全盛時代となれり。吾人惟へらく、女風之より一變せん。凡そ女風をして一變せしむるもの、此の高等女學校の如く、普ねく且つ力あるものは他に多からじと。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

吾人固く信ず、其の影響は今后數年にして漸次に顯著となり來らんと。

因りて惟ふ、高等女學校全盛の及ぼす所の結果は、善きものあり、惡しきものあり。其の善きものは意想外なるを樂しみとせん、特り其の惡しきものに至りては、今より當に警戒し、及ぶべき丈け其の弊を豫防ずべき也と。乞ふ見よ、弊元種々あり、固より事物の隆盛なるに必然附隨し來るべきもの多からんと雖ども、更に他の一事極めて忌はしきものゝ之と同じに來ることなからんか、吾人深く之を憂ふ。

曰く、何ぞ。他なし、高等女學校出身の娘子、人の妻となり、其の貞操よく古風の女子にすら及ぶことを得る乎の一事是れ也。吾人は疑ふ、高等女學校なるものゝ教育と、惣べて女子教育なるものゝ感化との若し今の如くにして止まば、凡そ妻女の貞操を養ふこと果して古風の教育にすら及ぶことを得るかを。吾人と雖ども尙ほ之に疑懼せざるを得ず。蓋し、宗教、もしくは宗教類似の精神的感化なき女子教育は、其の結果に於て必らずや貞操を堅からしむることなけん。是れ吾人が今の高等女學校の結果に就き、豫じめ深く警戒する所也。

男女相見る鑑識の差

井華

如何なるかこれ理想の婦人、といふ問題一時は、世上に流行したるが、之には多々の說あれども、詮ずるに理想的なる、否むしろ空想的なる議論を好みて、淑德貞節以下要求する婦行女德の箇條極めて多けれども、扨て理想は其儘にさし置きて、實際、一般の男子、ことに青年の好む處、目を惹かるゝ處の女子は如何なるものかといふに、中々に議論には外れるが多し。

今試みに、世上多くの男子は。實際、如何なる女子を愛好するかに就きて、少しく說く處あらん。

男子年やうやく長じて、女子といふものゝ、物珍らしき時代となれば、先づ目につくは、多少佳美の容色ありて又愛嬌あるものなり。さるは啻に青年のみならず、老壯の者と雖も亦然り、美色を愛するは、天理自然の情にして、之を開發すれば、以て高尙偉大なる思想行爲を解せしむるに至る。然るに、男子は要するに、女子の眞相を讀むの教育訓練に乏し

きを以て、多くは彼等の外形に、心惹かれて、遂に一生の蹉跌をなすとあり。而も如斯きは、無智無學の小民に於て然るのみならず、堂々たる學者才子と雖も亦然り。

女子の美色は、尤もよく男子の心を奪ふ。またたとひ美色に於て多少損する處ありと雖も、愛嬌に富み、即ち恥を含むが如くにして、而も馴々しく、交際に上手に、説話に巧みにして、所謂話しごたへのあるのは、まづ男子の目をひき、而して教育ある女子を求むるものも、亦、學問才藝の、談笑の間に漏發するものに、心を止む。男子、少艾を慕ふて、關々を徴唱するの時、これぞ君子の好逑なるかと、思ひ懐ふものは、多くは此類の女子にして、而して、未だ、此好女子、果して、一家を整へ、子女を教育するに、よく適へりやとの、實着なる鑑識を提起し來らず。彼等を見るは、將來の良妻賢母の資格を以てすると雖も、其實良妻賢母とは、果して如何なる女子にてあるかを知らざるなり。鳩の如く温和に、蛇の如く慧しといふ諺を、狹意義に當嵌むれは、まさに女子をいふべきか、女子は男子の前に在りて外形を飾り、眞相を隱蔽するに長ず。青年、まづ心を惹かるゝ如き女子に至りては、

特に然り、愛嬌なるものは、之を巧みにするの良器なり。未だ女子の眞相を解せず、また多くの女子を識らざる男子は、常に彼等の外形に迷ひて、比々として、鑑識の明を缺く。

惡婦の惑はす處となり、また賣女に迷ふものは、彼等の容色愛嬌等すべて、男子の心を奪ふに足るの利器を有すればなり。青年男子、一度び彼等が誘惑の手に捕へらるれば、其迷より去り難し。老壯者と雖も亦免れ難し。抑も美色あり愛嬌ある女子は、男子の慰みなり。之に心を惹かれずんばあらず。既に多くの女子を識れる男子と雖も、猶、其外形の慕しきを喜びてこれに迷ひ、所謂、一生のかたらひをなすべき妻の、既に世帶じみて着實なるに滿足せずして、いつはりの情の穽に陷つて一時の快を買ふもの多き、實にこれが爲めなり。これ、又強ち男子が、女に就ては愚なるが故のみにあらずして、愛らしき小兒を愛するが如くに、愛らしき女子を愛するとの、やさしき心あるが爲めなるにも由る。されば、女子眞相の鑑識に至りては、別に修養するあるを要す。

而して爰に一の奇異なる現象は多くの男子の愛好する女子は、多くの女子、殊に經驗智慧あるものゝ感心せざる處にし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て、而して多くの女子の愛好する男子は多くの男子、特に才智明眼あるもの、敬愛するものなるとなり。

女子は理想紳士の品格如何等につきて、議論を費すとなけれども、其常に理想とする處は、頗る實着なり。未熟なる女子の、紅顏の美男子に、目を奪はるると多しと雖も、其度、男子の美女に於けるが如くならず。其一般に愛好する男子は眞に男らしく、勇氣あり、意氣地あり、而して女子に對しては、柔和にして情深く、されどヒツコからざるに在り。如斯き男子は、またこれ男子中の優等なるものに非ずや。女子は、男子の中につきて、眞の男子を求むるの念熾んにして、女らしきものは之を嫌ふ、これ即ち其情の自然なり。女子は情愛を以て生命とす、これを滿足せしむるものは、女子に非ず、即ちまた女らしき男子にも非ずして、實に男らしき男子ならずんば能はず。

以上說くが如きは、決して空理の推測に非ずして、事實は歷々として之を證す。爰に於て見れば、女子の男子を見ると、自然に明徹なる眼識を備へて、男子が女子を見るの鑑識の、頗る欠乏せるが如きものに非ず。然るに、如斯く男女相見るの鑑識に相違あるは、抑も其理あり。

人の其情を滿足せしめんとするや、必ずや、己に異なる處あるものを追求す。沈默憂鬱なる男子の、快活饒舌なる女子に配し又、活潑强勇の男子と、柔和柔順の女子と、合すれば、共に夫婦の親愛、いと濃かなるは、心理上自然の道理にして、奇に似て、而も頗る眞面目なり。男子の性質は要するに剛、故に柔を以て補はんとを求め、女子の性質は要するに柔、故に剛を以て配せんとを欲す。これ即ち男女相愛するとある所以なり。然るに、男子が女子の柔を求むるや、其鳩の如きを見れども、蛇の如く慧きを知ると能はず、よつて其美色愛嬌等の外形に迷ふ。之に反して男子は其性格を露出して、之を陰蔽するの巧技を欠くを以て、女子は情の欲する處と、また一種の慧眼とを以て、よく男子の剛なるを認む。之を認むれども彼にやさしき情愛の念なくんば、其心を惹かれず。故に男らしき男子を求めて、過つと尠きの理あり。されば女子は男子よりも、異性を鑑別するとに於て、容易なるものあり。男子智惠あれども眞女子を得がたく、女子

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

智慧あれば、眞丈夫を求むると難からず。

また女子と男子とは、其情の滿足を求むるに輕重の差あることは、相互鑑識の明を異にせしめ、且つ男子は、戸外の生存競爭に心を勞すると多きを以て、女子の如く、戸内の情愛の天地に安息するものに比すれば、交互相識の智慧に劣るべきなり。男子は情に於て盲なるも多く之を意とせざるの傾向なれども、女子は情に於て必ずや明ならんとに志す。男女相見るの時、鑑識の優劣を生ずる、これまた其因をなせり。

琉球の女俗

佐々木笑受郎氏談

琉球に行きて、最も目に立つは、女子の風俗の甚だ内地と異れるとなり。第一琉球といふ處は、事實上、女子によりて持てる國なりといふべし。上下おしなべて女は能く働きて、男は大抵遊惰の民なり。財產ある上流社會に於ては、男子は泡盛を飲み、蛇皮線を彈じ、或は女郎屋に遊んで、其日を送る間に、妻女は深窗に在りて、家族の衣服などを製造するを常とし、更に中流以下に於ても、夫なるものゝ遊惰の性は少しも異なるとなくして、妻たるものは、戸内に在りては、機を織り、戸外に出でゝは、各種の勞働に從事して、金を儲けて、家計を支へ、また自己の貯蓄金を作る。女子は各種の勞働をなし、農耕をも勉め、甚しきは擔夫の業まで、其かよわきといはるゝ手にて働く。働くは女にて、遊ぶは男といふ狀態は何處に至るも目擊せらるゝ事實なり。

那覇の近傍に糸滿村といふ一部落あり、此地の男子丈は快勉なる勞働者にして、彼等は、片々たる獨木舟に掉さして、南海の怒濤を凌ぎて、臺灣沿岸にまでも赴きても、漁獲の業を營む。獲物あれば、家に歸りて、相當の價を以て、之を妻や娘に賣り與ふ。妻や娘は之を荷ひて市に鬻ぎ、獲たる利益は、全く己の收得にして、これを壺に入れて床下に貯へ、互に其多きを誇る、夫妻親子の間にて商賣をなす此奇習あり。首里、那覇等の人民の膳に上る魚類は、皆なこの糸滿の婦女より求むる處にして、糸滿が來ないといふは、魚なしといふ代表語となれる程なり。

●結婚は大方は、男女の幼少なる頃より結縁せるもの多く、而して他村人同士にて結婚するとは稀れに同村内の者のみにて嫁娶す。若し他村落の娶を娶らんとする時には、馬代といひて、廿圓か廿五圓の金を先方の村中へ送る、村中の若い者はこの金を以て集りて酒を飲んで遊ぶ、此に至りて見れば、即ち女は村中の若い者の持物なりといふ有樣なり。近來は此金を以て、酒食の料に供するを廢して、村の公共費用の爲に貯蓄することゝなれり。婚儀にも奇習あり、那覇にては、婿となるもの、杵馬に跨りて、花嫁を迎へに行くと、途中にて多人數より集りて、花嫁の惡口を此上なくいふ、これは結婚なるものは、如斯くに耻かしきもの、つらきものなれば、二度とすべき者でなしといふとを知らしむる爲めの工夫より起れるものなりといふ。扨て婚儀滯りなく濟めば、其夜直に新夫は友人等を伴ひて、遊廓に遊び、三日間晝間は遊廓に日を暮して夜は家に歸る。花嫁はまた三日間晝は里元に歸り、夜は其友人等と共に夫の家に寢す。三日過ぎての後、夫は初めて遊廓より足を絕ち、嫁は全く家に落付くなり。首里の結婚風那覇と異なる處は、遊廓に流連せざる一點にあり。

遊廓は、那覇に三ヶ處あり、他の町村には無し。遊廓の風習も亦頗る内地と異なり、旦に吳の客を送り、夕に越の客を迎ふるといふ風は稀にして、多くは一人の客が、期を極めて買ひ置き、約束期限間は定まりの金を拂ふなり、恰もこれ内地の多情男子が、月極めの妾を置くと同一槩なり。女郎屋の門戸は晝は開け放ちなど、夕刻より之れを閉す。客は其の門前に到り、戸をたゝきて、目ざす娼妓を呼

出す。娼妓と客とは門の內外にて相談し、相談纏まれば內へ入り、纏まらざれば、客は空しく歸るなり。

女郎屋は、多くは娼妓の成り上りたるもの之を營む。家內多くの娼妓中、最も勢力あるは、其家にて生れし娼妓の子の、成長して、これまた娼妓となれるものなり。代々娼妓といふ狀態なり。娼妓なるものは元來二種ありしが其一は、村々の內規にて一人、稅金を滯納するときは、村中にて之を貢擔し、村中之を貢擔し堪へざるときは村々の集合躰たるマキリにて之を貢擔す。なほこれにても出來ざる時、彼者の家に娘あれば、之を女郎屋に賣りて、身代金を得て仕拂をなすの風ありて、この不運によりて陷りたるもの、其二は借金の抵當といふ名前を以て賣渡されたるものなり。然るに前者の方は往年人身賣買なりとして政府よりして差留められ、また滯納處分法の公布されし以來此風頓に止みたり。娼妓は土人の方多し。

密娼なるもの以前は少かりしよしなるが、先年娼妓撿査を施行することゝなりてより、往々之を耻ぢて、娼妓鑑札を返納して、村方などに行きて、男に料理屋など開かせて、密賣をなすもの多きを致せり。

女子の初等教育は割合に盛んにして、而して那覇にては、遊廓の者、中々之に熱心なり。彼娼妓の子にして、將來また娼妓となるもの續々として學校に通ひ、而して母親なる娼妓は往々子に伴ひて登校す。其家の子女も彼等に混じて毫も怪しまざるの風あり。

寡婦の再嫁するもの少し。これは一は其の古來の道德習慣に由ると、また一つには、女子は盛んに勞働する風なるが上に、生活また簡易なるが上に、二度も三度もわざ／＼、遊惰なる夫に見えずとも可なる處あるが爲めなり。また土人の子は內地人に嫁することを嫌ふ。これは、明治になりても內地より渡來せしものにして、二三人土人を娶りしものありしが、內地に歸る時には、打棄て置きたるが故に、ヤマトの人は、折角娶り吳れても、此方に居る間丈の慰みにするのみにて、遂には棄てる者なりとの惡感情を與へたるがためなり。また往古源爲朝此地に來りて、土人の女を娶り、子を設けたるが、此地を去るに臨みて、これを伴はんとしたるに海波荒れて、遂に果たさず、これ土地の女の外に出るは、海神の忌む處なるが爲なりしによるとの傳說もありて、女は外ぬこととなれり。しかし當節は內地に出稼娼妓となりて渡來するものもあり。現に吉原にも此類のものあり。

女子が勞働に勉むるに至りたる根原は種々あるべけれども、此一因と思はるゝは、昔し藩政の時代には、士族に有祿と無祿との別ありて、無祿の士族は僅かの手當にて、公務を勤め、其出來榮にて有祿の格に取上げらるゝことゝなり居たれば、彼等は中々に一家を支ふることならざるより、妻女は勞働に從事して、家計を維持したりしが、此勤勉の風上下に傳はりたりと覺しきことなりとす。

教育

人の子を戕ふ者

曲浦

苟くも其任とする處、教育の道に在り乍ら、身を以てまた心を以て諸生を率ゐること能はず、信仰なく德操なく、而も往々不正不義の行爲をなして、なほ恬然として人の子に授くるに道を以てせんとするものゝ、其數尠からざるに至りては、正に憮然として長嘆せずんばあらず、たゞに然るのみならず、彼等は實に明暗の裡に於て、貴重なる人の子を戕ふものにして、其罪や鳴皷してこれを攻めずんばあらず。

又彼の身、教育の任に在の問は、理を說き、道を談じで、諸

生を薫化するに勉めたるもの、一朝、當初の志を飜して或は實業界に入り、甚だしきは相場師ともなりて、一擲千金の樂みは、魔道に陥るの惡媒となり、曩時、説きて人に教へたる理と道とを、忽然として忘却し、良心の責を抑へ、曾ては人の子に戒めたる不正不義を自から行つて、之を恥ぢざるもの間々之れあり。彼等は如今、教育に從事せざるの故を以て、其非行を辯護せんとするものなるべけれども、知らずや、彼等は即ち、往年の諸生に暗示するに親しく無節操無定見なるもなほ可なるを以てするものに非ずや。其人の子を戕ふの罪の至深なる、容易に之を宥すべきものに非ず。

以上二種の如きは、現に今日教育界の大弊竇にして、力を盡くして之を根除せずんばあらず。然にまた爰に他種の甚だしく人の子を戕ふ所以の大弊の伏するあり。此種のものに至りては、教育家自ら其過ちを知らざるのみならず、世流滔々としてまた却て之を是とするものなり。然れども其弊をなす所以の知られざる程に、其害をなすこともまた大なるものあり。これ他なし、教育者が自ら僻する處を以て強ひて諸生の柔軟なる頭腦に注入することなり。或は倫理に一の主義を立て、またには宗教に一派を劃して、自ら製作せる摸型を以て、諸生を一形に鑄造せんとする頑僻教育家の所爲是れなり。凡そ諸生に強ふるに一定の摸型を以てせんとするは、教育に於て最も忌むべき所なるに、現今の如きは、官的教育家の徒擧りて國家主義なりと稱して、其主義とする處、殆ど意味なきに、なほ之を持すると頑僻固陋に單に忠臣愛國はた敵愾といへる空漠なる思想を以て、子弟の頭腦を惑亂せんとす。之に學ぶの子弟をして、比々として着實なる精神を失はしめ、而して其教育は僅に、學校騷動てふ奇怪なる現象を利し得たり。而してなほ其過を知らずして、罪を諸生の不遜なるに嫁す。憐れむべく、また厭ふべきは此種の教育家なるかな。彼等は我此説を以て誤まれりとせん、されど竊に思ひ見よ、其教育の結果正に如何なるかを。諸君果して此主義を以て、幾何の眞實なる忠君愛國者を養ひ得たりや。忠君愛國の事、由來、殊更に之を説く事を要せずして、國民の心自から之を有す。強ひて之を説くは、徒らに諸生を挑撥するに止まるのみ。此の人の子を戕ふ所以の教育は、今の官的教育の通弊なり、而も自ら識者を以て任ずるもの、傲然として、其益を説く。嘆す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

べきかな。

且つ又世には、自から愛好する處の偏僻にして着實ならざる思想を以て、頭腦幼稚なる學生に授け、彼等の己に等しき思想を有するものたらんことを期するものあり。これ又甚た不可なり。先入は常に主となる、斯如にして養はれたる子弟の將來や如何、また偏僻奇異にして、世に處すると難く、徒らに父兄の歎を遺すものたるとなきを保し難し。これまた人の子を戕ふの大なるものならずや。米國は自由教育の國なり、されど普通、學校の教育には、バイロン、キーツ、シェレー等を授けざる、蓋し所以ありといふべし。思想含蓄如何に幽妙なるものありと雖も、其思想の着實ならず、其名の正しからざらは、教育家の授くべき處に非ず。

凡そ教育の道とする處、偏僻ならざるにあり、狂氣ならざるに在り、固陋ならざるに在り、要は着實なるを貴ぶ。其着實なる處に於て、玄妙幽遠なる思想も、高尙純潔なる道德も、共に存して餘りあり。人の子を敎ふるは、勉めて自ら僻する處を遠ざけて、たゞ道の着實なるを以てすべし。之を能くせざるものは、即ち教育家たるに堪へざるものなり。彼偏狹なる國家主義の人の今の教育は無主義なりなどゝいひて、自ら好む處の主義を以て、世上の教育主義たらしめんと欲するは、これ他なし教育の何ものたるを知らず、人の子を戕ふて顧みざるものなり。教育上の主義とは偏僻固陋なるものをいふか、然らば、教育は須からく無主義なるべし。

吾人は今日の教育の弊害に慨する處あり、よりて此論をなす。乞ふ吾人を以て漫りに激するものとなすと勿れ、明察なる識者、靜に此論の是非を判ずれば幸なり。

教育界時言

◎慈善事業の取締

公立にありては東京市養育院、私立に在りては、岡山孤兒院等の規模やゝ大なるものを始とし、窮民孤兒の爲めに設けられたる慈善組織は、國内其數に乏しからす、而しては其中には眞に博愛慈善の精神に富める、熱心なる宗教家の一命を擲ちて從事せるもの尠からざれども、竊に思ふに、此等の人々の事業と雖も、其人死して後、果してよく之を繼續するに堪ふるものありや、實に掛念の事にて、不幸にも其際には折角の經營も瓦解を免れず、收養せる多數の窮民孤兒は再び路頭に迷ふものとなるは、多分の情態ならん。慈善事業は永遠の大計あるを要し、たゞに現在をのみ考ふべきに非ずして、必ずや百年二百年の後の方針に慮りあることを要す。

而して世上にはまた慈善事業の名を假りて、私利を營む鼠輩あり、其不義背德の行蹟の既に暴露せしものあり、なほ仁人の眼を眩して通せるものもあり。此等不正の行爲を排して、彼誠實熱心者の事業を永遠に扶植せんが爲には、是非共官府に於てこれを取締ることなくんばあらず。紐育市の如きには、民設の救兒協會ありて、多くの慈善事業の監督補助をなせるが、如斯き團體を起さんとは、我國にては先づ望みなく、宗教團體にて取締るといふも、覺束なき事なれば、詮ずるに、官府に於て、慈善事業取締條例なるものを發布して、慈善事業を起すには、相當の資本金あるを要し、また寄附金は、總て之れを基本金に積立つべく、日常の費用として消費するを許さゞる等の規定を設け、其條例は要するに大躰を規するに止め且又中央政局に其監督局を置き、地方廳内にも之を分設し、而して之に任ずる顧問事務員は宗教家其他の有望篤實なるものを擧げて、半官半民の態となし、彼等の監督もまた大躰に止めて、細事にまで干渉する能はざらしむるを要す。かくてたゞに監督をなすのみならず、國費中より相當の保護金を下附すべく、而して既設の慈善事業にして、解散する時には、其資本金はこれを國庫に沒收して、保護金中に加ふべし。如斯にして既設のものは、よく之を助長し、また新設を奬勵すべし、これ實に窮民の跡を絶ちて、罪囚を減ずるの道にして、此有効なる取締は將來必ずやこれ無くんばあらざるなり。

◎日本人の非日本人思想

欧米人の人品、行爲、事業等に比して新國民の甚だ劣れるを感ずるは、扼腕を撫して、日本は君子國なりなど空威張りをなすものさへも、心中には免れぬ處なるが、此頃支那朝鮮に遊び、また新領地なる臺灣を巡視したる具眼の人士が、曾て目して、保守、頑固、野蠻と蔑みたる支那人等の、勤勉、廣大、有爲なるに比して、日本人の如何にも、懶惰にして遠大の目的もなく、まことに不始末千万なるを見て、同胞ながらにも甚だしく失望して、非日本人思想を抱くもの、此頃極めて尠からず。中には、我國は朝鮮と甲乙なき、亡國の民なるぞと歎息するものあり。

◎我國の價位

久津見蕨村氏『國民的感情と國家教育』を論じて、慷慨の説をなす。蓋し頗る近時の偏狭なる國家教育の弊をいふものなり。氏は、吾人は我國に對してグレートといふ言葉を冠せしむるは、大に耻づべきものあるを覺ゆといひ、大國民、大日本、大和魂、忠孝、尊王、神國、國體等、吾人が國民性、國民の特質、若しくは國粹として中外に誇るものは、唯一偏の國民的感情にして、實際上に於ては、夫程の價値なく、又更に思考を要すべきものなりと喝し、凡て今日の國家教育は其方針に於て徒に國民的感情を昂進せしむるのみにして、自國の眞價を誤り、自尊排他の感情を高め、適々外交に政治に累を及ぼさしむる所以の原因たらずんばあらず。其倫理教育の如き、國民的感情を煽動すること甚だしきものあり。我國の万國に秀でたるを語る國自慢も、之を談笑の間、若くは他の或る機轉を要する場合には可なれども、教科書は眞實を教へざるべからず、又啻に自國内の善事高德のみならず、世界内の善事高德をも說くべし。然るに今の修身教科書を作るもの等は、濶大の見識に乏しく、活例を内國の事實に限り、廣く世界に道德を求めず、妄りに自國人の德のみを稱揚誇示し、以て我國民の万國に秀でたるを示さんと致するに似たり、近時或る修身教科書の撿定に際し、其書中にワシントンが幼時父の櫻樹を切りたる物語ありしに、是外國の例話にして、本邦兒童の德育に益なしとの理由に依り、既に刪除に決したり。前文相之を見て、其狹隘と非理とを笑ひ、忽ちに其議を變ぜしめたりといふ。撿定の官吏に此狹隘あり、編纂の人物に彼固陋あり、廣く世界に道德の秀長なるものを求めて、以て我國兒童の德性を涵養せしめんと欲するが如き、有益、公平、濶大なる意見の行はれざるは怪むに足らず。此弊や、生徒は、其實に道德の高きを解せずして、唯漠然として實行の伴はざる忠孝を空言し、自負心を盛んにし、油断心を增進するものとならん云々と。論じ來り論じ去る數千言、近時聞くべきの論なり。今日の教育界には、此種の議論、いよ〳〵ます〳〵盛んに行はれずんばあらず。國民擧りて、一旦自國の價値なきを覺らずんば、此國や遂に救ひ難からん。

◎教育界の腐敗

神田本郷の兩區は、學生の巣窟なり、而して此兩區より發する郵便物の十中八九は、吉原の遊廓を差して送られ、其中書簡についで寫眞の郵送多しときくさへ、

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

以て彼地學生の腐敗をトすべし。學生風儀の腐敗を叫ぶの聲、近時いよ〳〵激しきを加へ、之と共に教師道德の頽敗を歎ずるもの頗る多し。今の教育界は實に心あるものをして失望せしむるに足るのみ。然るにこの狀態は、彼空漠にして無責任なる國性自頁的倫理說の行はるゝ間は、迚も救濟の見込みなきものなり。彼僞傑なる教育論者等、徒らに之を慨して、而して其弊の由りて來る處を知らざるのみならず、而も其火の手を熾にす。嗚呼迷の醒めざるも甚だしきかな。

されど腐敗非德の汚氣は、我日本全國に充滿せり、何ぞ獨り教育界の事のみならんや。彼立法に參議するの大責任ある、堂々たる代議士先生等、議會開會中の今日は、月極めの妾の相場騰貴したりといひ、また多分の者は夜を遊里に消すと聞くは、嗚呼何等の亡狀ぞや。彼等は國を破り、國を賣るものなるかな。先進かくの如く、後進またかの如し。我國の先進果して如何。昔、以太利建國の當時に於ては、代議士皆な腰辨當にて出席したりといふ美談あり。我國今日國事の多端なるに當り、彼代議士等は奢侈放埒、朝夕に高利貸に迫まられて、賄路を欲求し、買收に否を鳴らす。嗚呼君子國民の代表者とは蓋し如斯きものをいふ乎。吾人之を耻づ。

◎禮節なき紳士

西洋の立食には、定まりたる禮法あるものなり。然るに之が我國に輸入されて、此處彼處に立食會開かれ、堂々たる紳士、之に臨むの狀を見るに、驚くべし、何ぞ其狀の餓ゑたる犬の食を爭ふに似たるの酷しきや。皿と肉叉とを手にして、食卓に集まれば、紳士の假面を脫ぎ棄てゝ、我先きを競ひて、喧々囂々、亂狀を極む。後れて至るものは、遂に勝げて食ふべきを餘さず。饗けば歸る、歸るに臨めば、又瓶に挿める花卉を爭奪して、手もて足もて折り、花散りて跡なきも、なほ得々として枝片を手裡にして歸る。此時給仕人は呆然として之を打ち戍り、これが習慣なりといふもの、滑稽にして、また亡狀なり。近時某地方の赤十字社懇親會にフロツクコートの紳士が、給仕の運ぶ魚、ビールを橫奪して、之を背裡に藏し、其上飽食して歸りたりとの珍談あり。禮節を知らざるも甚しからずや。されどかゝる宴會に於けるのみならず、今日の紳士は何事に於ても、禮節を知らざる皆此類なり。禮節なき國民は遂に他の齒する處とならず。我國舊禮節廢れて、新禮節は何時か起るべきやを知らず。過渡の時代とはいひながら、あまりといふも愚なり。而も風儀禮節年々に衰て、社會の制裁日々に弛ぶをや。

◎新聞紙の無責任

新聞紙の黨同伐異の弊、今日に於て甚だしきを見る。新紙の職は、事實を報道せざるにありとすれば可なり。然れどもいやしくも、社會を開導すると稱する以上は、一面はもとより、三面記事に至るまで、須く大に注意を加ふるものなくんばあらず。明治十四五年頃には、新聞紙とは、人の惡口を書くものと人々は思ひたりしが、この事實は今もなほ存せり。一例を擧ぐれば、教育界、學校等にて起りし些細の事柄を、棒大に報道し、考へのなき雜報記者等が、面白半分に、揣摩臆測を加へて人を驚さんとを勉め、其害、教育や學校の名譽進歩をきづゝけて、却て得々たるものあるは、近時屢々見る處なり。其他吳聞、珍談、怪說の害ありて、益なきを穿鑿し、之を記するものは、社會の進歩に對しては何の責任をも感ぜざる劣等記者なり。新聞紙は、國民教育の一要機關なり、然るに此要務を知りて、之に任ずるものなく、たま〳〵讀者を挑撥し、着實の思慮を欠かしむるは、實に當今の通弊なり。今の教育界は大に刷新を加へざるべからず、而しまた同時に、無責任なる新聞紙をして其跡を絕たしめずんばあらず。

◎東京盲啞學校創立以後の成績

◉卒業生

東京盲啞學校にては、明治三十年に初めて卒業生を出してより、今日に至り卒業生を合算するに盲生四十九名、啞生三十九名合計八十八名なり、彼等が卒業後の狀況を調ぶるに、盲生の內、鍼治按摩を自宅營業とするもの十二名、病院按摩に雇はれ居るもの三名、琴師匠三名、訓盲教員四名、商業者一名、鍼治溫習生一名、琴溫習生三名、留校鍼治專脩生九名、病氣家居者一名、醫學脩業者一名、未定一名、死亡者十名內肺病七名、脚氣二名、頓死一名なりといふ。又啞生にては、木工職五名、該校助手三名、圖畫溫習生四名、裁縫溫習生二名、彫刻溫習生一名、指物細工溫習生一名、貫縫職一名、蒔繪師一名、農業者一名、家居十一名、裁縫編物

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の助手一名、靴工一名、鑛業者一名、未定者四名、死亡者一名あり。

◎現在生徒

現在生徒（三月末調査）は總員百七十八内盲男五十四名、女八名、啞男六十三名、女四十五名なり。之を通學と寄宿とに分てば、通學生八十九名、寄宿生八十一名、府縣別にては、三府二十九縣に亘り、内最多きは東京の四十九名、神奈川新潟の十六名にして、内には北海道より來れるもあり、又臺灣より來學せるもの三名あり。年齡は盲生にては最長卅一年、最幼十二年、啞生にては最長廿九年、最幼九年なり。

◎生徒の健康狀態

體力概するに啞生は盲生に優れども、齒牙は盲生善惡相半し、啞生は悪しきもの三分の二に近し。また啞生には割合に近眼者多し。

死亡の數、啞一人に對する盲の十人にして、殊に盲人の肺患にて死する者多きは盲者は思想の發達過敏にして、尤も情に感じ易く、且視官の缺乏より、天然の美等を見るの快樂なき爲に、運動遊歩するの精神を起さず、自然憂欝に陷るにあり。

現在生徒の失官原因を調ぶるに、盲生は生來のもの僅かに三名、最も多きは遺傳性梅毒、之に次ぐは化膿性結膜炎及び視神經知覺過敏等とす。啞生は生來のもの甚だ多く四十名あり。之に次ぐは、急性腦膜炎、腦病、外耳炎、打腦等なりとす。

●海外教育界

◎歐米諸大學の優劣位次

世界に於ける最大なる大學の優劣を考ふるに、其一等より八等までは、いづれも歐洲大陸に在り、其順序は左の如し。

第一パリ大學●第二ベリーン大學●第三ウヰンナ大學●第四マドリッド大學●第五子ープルス大學●第六モスカウ大學●第七ブダペスト大學●第八ミユーニッヒ大學

而して米國第一等の大學たる、ハーヴアード大學は、やうやく第九位に在り。これは昨年中にて、第十位より一等進みたるものなり。又昨年中其ミシガン大學は第十八位より第十七位に進み、ペンシルヴアニヤ大學は第二十一位より第二十位に進み、エール大學は、第二十五位より、第二十三位に進みたり。然るに之に反して、其ニユーヨーク大學は、第四十九位より下りて第六十一位となれり。今米國に於ける最大なる大學の優劣順次は左の如し。

第一ハーヴアード大學●第二ノルスウヱスタン大學●第三ミシガン大學●第四ペンシルヴアニア大學●第五ミ子ソタ大學●第六エール大學●第七カリフォルニア大學●第八シカゴ大學●第九コロラド大學●第十コー子ル大學

◎米國コロラド州の教育上婦人の勢力　米國コロラド州にては、婦人頗る教育上に權力を有して、州内五十九部の内二十七までは婦人の學校監督なり、其各學校には、必ず一二の女教員あり。

◎ニユーヨーク市の教員養老金　ニユーヨーク市の知事ブラック氏は、同市の國產税金百分の五を以て教員退職後の養老給の資本金となすの條例を發したり。

◎ラファイエット紀念碑　米國の義人ラファイエットは、一命を賭して、佛國革命を救ふて、其鬼未だ祭られず、墓地荒れて遺れり。これが爲にシカゴ府のロバート、トムソンといへる人、來る千九百年の巴黎大博覽會を期して、ラファイエット紀念碑を佛國に寄附することを發起し、大統領マッキンレー氏之に贊同して、全國諸學校に於て義捐金募集に從事する方案を國會に提出せり。而して此紀念碑は千九百年七月四日、之を佛國政府に呈して、之が開眼式を擧行する目的なり。

◎新教育法　米國マッサチユセッツ州ブルークリン市の公立學校は、女兒にも木工術を授け、男兒には又簡易なる料理法を教ふることゝなせるが、成績頗る良好なりといふ。

◎詩人ローウエルの紀念資金　米國近時の大詩人、ジエームス、ラッセル、ローウエルの爲め、ボストン市にて募集せる資金は二万二千〇七十八弗に達したり。

◎黑人七十餘にして學に志す　ボストンの黑人アーサー、クラムプラーといへるは、もと奴隷にして解放せられしものなるが、今年七十四歲にして、夜學校に通學して勉む。

◎世界中大學教授の最高給　は一年二万弗なり。之を受くるものは、英國エヂンバラ大學の教授サンマーなり。

◎米國三大學の圖書購入金額　エール大學は毎年七千弗を、ハーヴアード大學は

同一萬六千弗をコロンビア大學は同四萬三千弗を以て書籍購入費に充つ。

◎各國の大學普及運動　最近の統計によれば、世界中、大學普及運動をなせるもの、米國に七十四、英國に四十一、スコットランドに六、印度ボンベイに一、日本に二、都て百廿四なり。扨て日本のユニバーシチー、セットルメンツとは何を指せるにや。

◎百萬餘弗の大學寄附　佛國パリ府の人にて、米國ニューヨークにて、ジヨセフ、エフ、ルーバットといへば、誰知らぬ人なき財產家なるが、此程米國コロンビヤ大學に寄附するに百十萬弗に相當する財產を分與したり、同大學にして此程多額の寄附を受けたるとは、古今未曾有にして、この財產より得る收益は、凡て圖書館の為に用ゐることとなれりと。

◎此外、近時の海外教育界に關する記事は、「時報」欄◎末「海外女界」中にも載せたれば、ついて見るべし◎

◎蘇鐵の葉の効用

蘇鐵の葉の枯れたるを黒燒にして胡麻の油に和し貯へ置くべし。金瘡切り疵にはいかほどの事にても、酒にて洗はずに愈ゆると妙なり。楠正成が家の法なりとて、堺大和屋のあるじ、予に傳へたり、予が友中根彌次郎といふもの、遺恨によりて切られし時、深さ四寸ばかりの疵口へ、この薬を付けて、忽ち全快せし。

（雲萍雜誌）

雜録

英國の老偉人

（グラッドストーン氏の逸事）

英國の老偉人、十九世紀の人傑、ウイリアム、エワート、グラッドストーン氏(R. Hon. William Ewart Gladstone.)は兼て、病氣危篤にして、一旦は佛國に轉地して療養を加へつゝありしも、到底回復の見込みなきを以て、遺骸を本國墳墓の故郷に埋めんとの、哀しき覺悟を以て、ハワーデンの居城に歸りしが、遂に醫藥其効を奏せず、此人、何處にか、不死不老の靈泉を酌み得たりや、彼は必ずや、廿世紀の新舞臺に、活劇を演ずるなるべしとまでに、天下擧りて深く矚望したりしに、人生畢竟、老と死とを免るゝの道なく、此年五月十九日を以て、一世の限りとして、あたら英雄の靈魂、万人痛哭の涙を灑がれて、榮光の冠を受くべき、上天の坐に歸れり○光彩陸離たる虞氏の一生涯は、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

十九世紀の曙光新に輝きて、初めて九年なる、其十二月十九日、呱々の聲を、リヴアプールなる一豪商の家に擧げしに始まりて、此世紀將に二年の後にして暮れなんとする今日に終り、星霜去來すると八十八年餘。其間、此老偉人が、高德俊智の精腦敏腕を以て、閲歷したる偉蹟は、多端多狀、到底、短日月の語り盡すとを得べき處に非ず。されど、今に當りて、此人傑を紀念して、彼に付きて學ぶ處なくして可ならんや。故に、たゞ、其逸事、これまた甚だ多多たるものゝ、十一を抄して、此回の悲事を哀弔するに代へんとす。哀悼窮期なし。而して徒に哀悼するは、其偉大なる人物を回顧するの優れるに若かざるなり。

●虞氏の血統は、これを蘇格蘭山水秀靈の氣、凝りて剛毅英邁なる人を成せし處より受け、其父は、身を商家の手代より起して、リヴアプール屈指の豪商となり。保守黨員として、屢々國會に出で、同黨の名士カンニング、ピール等と交り厚く、遂に從男爵に叙せられる人、母氏また賢明貞淑、敬虔にして神を畏れ愛情に富みたり。此父母にして此子ある、敢て怪しむに足らず。虞氏六人の同胞中、第三に生れ、共に家庭に在りしや、爐邊の會話も主として、大小問題の討論より成り立ち、兒童の頭腦自ら明白なるを得せしめたり。其竹馬の老友、兼て氏を記して曰く「活潑にして物事を習ふとを渴望し、事の根柢に穿ち入るを喜べり。遊嬉惡戲をあまり嗜まず、往々にして深く物事を慮り、最も讀書を樂み、論文若くは小冊子の類を熟讀するの風ありたり」といひき。氏は少時よりして、日記、覺帳を綿密に記するの習慣あり、また母氏は旅行中の如きは、大率、なほ十歲前後なる氏に托し置きたりと。當年何ぞ思ひ至らんや、この小理財者は、後年大英國の財嚢を管理するものたらんとは。

●其イートン校に學ぶや、夙に頭角を抽んでゝ、教師も同窓も共に望を置きたり。之を卒へてオックスフホルド大學に入りしや、又學問品行共に大學生の模範と仰がれ、其感化一校に及び、十年後此校に入りしものも、なほ當年の虞氏が遺しし感化を仰ぎたりといふ。氏が嚴正敬虔なる一生涯は、既に少年時代に於て始まれり。氏が同窓の學友中には、後に英國に高名を馳せたる名士の雛見頗る多かりき。彼等の間に處して最も秀でたりしは、攝理の彼を以て常に人の上に置きしも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

のたるを知る。

●氏、學校に在りては、初めは主として古文學に熱心なりしが、父の戒めによりて鋭意數學に志したり。氏後年人に語りて「もし父の戒めに從はざりしならば、終に大藏大臣たると能はざりしならん」と。理財に長じて公に奉じ、私に處しては古文學の研鑽に優れたるは、實に氏が一生の最大特色なりき。其宗教は幼より老に至るまで、常にオルソドクッスの粹なるものなりき。

●大學を去りて暫く以太利に遊びしが、忽ち招き歸されて保守黨衆望の裡にニユーワークの代議士に撰擧せられたり。氏時に年甫めて二十三歲。又、二十五歲にしてロバート。ピールの内閣に財務次官となりしが、これぞ即ち以後六十年の長日月間、英國の政治界を風靡するの始めなりける。後ち或は殖民次官となり、或は大藏大臣となり、或は殖民大臣となり、遂に千八百六十八年齡五十九にして、初めて自由黨を率ゐて大宰相となりしより、千八百九十四年五月、遂に政界を退くに至るまでに、四度、自ら内閣を組織したり。政界に處しては、朝に進むも、野に退くも、常に之を支配して、治績頗る多かりし中にも、別けて、氏が最も心を用ひたるは、彼有名なる愛蘭自治案なりき。而して氏は外交よりも、寧ろ内治に長じ、英國今日の富强は實に氏の賜なり。

●氏は保守黨より自由黨に入り、更に急激なる自由黨となりしが、これ變節弱志の故に非ず。氏は絶えず思想を働かしたり、よりて斷えず進歩したり、氏は即ち進んで止まざりし人にして、而して其精神の根柢をなせる主義に至りては、不撓不屈にして、其進むや、爲に幾多の良友と手を別ち、世の誹議を蒙りしも、毫も意とせざりき。されど主義は最後の勝利者にして、氏の大名は遂に競爭者なくして、天下に轟けり。

●英國人は由來保守癖あり、而して虞氏の進歩主義なりしと如斯し。氏の屢々蒙りし惡名は、この間の衝突より來りしものなりき。

●氏は頭腦明徹、論理精確にして、其雄辯なりしと、英國に於て、ピツト以後の一人なりと稱せらる。一たび議會に臨んで演說するや、常に三四時の多きに亘りて、些かの贅辭なく、また漏す所なく、敵黨と雖も、耳打ちすましで、感嘆に堪へざらしめたり。氏が成功の一半は、其金口に在りしといふも、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

亦不可なし。氏また頗る記臆力に富みたりき。

●氏は政治上に於て多くの敵を有せしも、殊更に私敵を作るの人に非ざりき。當年の大敵手、ビーコンスフヒールド伯の薨去せしや、氏第一に國會に建議して、伯を國葬にせんとしたりしは、今日まで、實に世人の歎美する處なり。

●政治界の馳驅多端なりしが間にも、氏は、なほ自ら好む處の古文學、宗教學の研究に怠らず。其ホーマーに關する有名なる著述の如きは、保守黨内閣の爲に、希臘に使したるの年に成りたり。また諸名流と宗教論戰に熱したること屢なりき。宗教上其他の著述また實に尠からず。

●氏の欠點をいへば、あまりに嚴正なるにありて、其内閣員の如きも、私交に於て氏の邸宅に出入すること稀れなりしといふ。氏また滑脱輕妙の調を欠く。剛毅不屈鋭進の人、往々にして此欠點あるは免れざる處にして、而して其成功も此理より來れり。氏一たび正義と信ずれば、屢々自黨員等の意表に出でゝ、忽ち之を斷ずるに遲々たらざりき。氏に於ては、實に良好なる專制君主の態度の存せしを見る。氏の成功の秘訣は實に其確信明斷に在りき。

●氏はしかく多く勞して、疲勞せざりしは、萬事を打ち忘れて、意志のまゝに十分でも二十分でも安眠することを得たるが故に在り。多くの事業をなし得たりしは、時間を吝みたるの結果にして、氏は、書簡を發するに、多くは端書の簡便なるを以てせし程なり。「グラッドストーンの端書」の名、頗る喧し。

●氏のハワーデン城に在るや日曜日には、必ず次男の牧せるハワーデン教會堂に臨んで、村娘野夫と共に、其妙音を以て讃美歌を唱へ、また時々講壇に立ちて聖書を朗讀す。老偉人の口よりして、ナザレの耶蘇の大福音を聽かんとて、四方より人々集り來りて、教會内潮の湧くが如く、爲に、氏も止むを得ず、屢々之を廢したり。居城に在りては、斧を揮つて樹木を伐ることを運動の助けとして之を樂しみ、あまりに之に熱中せし時には、夫人等其健康に害あらんことを恐れて、之を諫めたる程なり。其書齋はこれを「平和の宮殿」と名づけ、この平和境裡よりして、出でゝは政界の大修羅場に百万の敵と舌刄智鋒を鬪はせたり。其家庭はまた是實に平和の宮殿に

して、夫人は賢明溫良の資、よく虞氏を助け、子女を教育し、年齒、夫氏と共に高く、一家福壽無疆の樂園を開きたり。千八百八十九年七月、結婚後五十年の金婚式を擧行せしや、時に波斯王來遊して、この盛式に臨み、嘆じて「渠は五十年の生涯に一個の夫人を有し、余は一生涯に五十人の妻を有す。而して幸福は彼に在りて我に在らず」といひしとかや。今日に至りては、將に六十年ならんとする歲月時の伉儷をば保ちしは世人擧りて之を羨望せざるはなけん。

●聲名既に天下に轟くや、諸方の男女來りて此大政治家の風采を見んとを欲し、ハワーデン城に來るもの、引きも切らず、紀念の爲に草苔を奪ひ去るものあり。一糸の白髮も五磅を價ひし、氏を蹴りたる牛の齒は一枚數磅を値ひしたりといふ。

●保守黨のチャーチル卿、議會の演說に、虞氏を稱して、The Grand Old Man (老偉人)といひし以來この美しき綽名は即ち氏のものとなり、單に G. O. M. といへば、人皆則ち虞氏なるを知るに至れり。

●千八百八十五年六月、氏、第二次の大宰相を辭せしや、齡既に七十六。女皇爲に氏が多年の勳功を思召して、伯爵に敍すべき勅諚ありしも、之を辭し、昨年女皇御位六十年の金剛石祝典の際にも亦、敍爵の內命ありしも、これを辭したり。こは氏は飽くまでも平民としての榮譽ある一生涯を過さんが爲なりとなり。此一事また凡流の企て及ぶ處に非ず。

●吁今や、此老偉人逝けり。英國議會は、氏を葬るに國家の大禮を以てするに決し、五月二十八日、皇太子、皇太孫、サリスベリー侯、ローズベリー伯、キンバレー伯、カンターベリー大監督、バルフオア氏、ハーマート氏等、靈柩を擁して、これをウエストミンスター墓地に葬る。此墓地たる、英國をして光榮の歷史あらしめたる、代々の名流大人の多くの、靜かに最後の眠をなすの處、善き戰ひを戰ひて、譽を揚げたる英名を記して、墓標森立す。而して今爰にまた此老偉人を安んじて、國會の議決に成れる、英國々民が哀悼の碑表は、傲然睨峙せんとするなり。

きゝおくる心を具して郭公

たかまの山のみねこえつなり

四　行

東京養育院を觀る

長汀子

皇城の北、音羽護國寺を去る數町にして、東京養育院あり院は市の設立にかゝり、老癈棄兒遺兒行旅病者等の、寄るべなき窮民を救濟撫育する處にして、今又新に惡少年男女を集めて、之を矯正感化する感化學校の設置計畫中に在り。明治の聖世、幸にして窮民孤兒等を救濟する慈善組織は、國内其數に乏しからずと雖も、緣を官邊に繋いで、而して規摸頗大なるもの、僅に此一院あるのみ。慈善事業に志あるもの宜しく就いて之を見るべし。されば同院の參觀記なるもの、旣に屢々操觚者の筆によりて傳へられたるありと雖も、吾人また爰に我讀者の爲に、某日親しく就いて同院を見、院幹事安達憲忠氏及び感化部主事山本德尙氏と會談したる見聞記を聊か記述せんとす。就ては先づ、其創立沿革の跡と維持法とを、其報告によりて抄記せん、これまた頗る知るべき要あるものなればなり。

* * * * * *

◎創立及沿革の跡

寛政年中、時の柳營の賢相、松平越中守定信、江戸八百八町の公費を節して、四ヶ年にして四萬兩を贏し得たれば、其中非常用貯蓄とし、また各地主に還付したるもの、殘餘即ち七分の額に加ふるに官金一万兩を以てして、救荒の資金となしたり。當時人々此金を名けて七分金と呼びたり。明治五年に及びて、東京に營繕會議所なるもの起りて、此七分金の殘餘を以て市内諸修繕費の基本金となしたるが、同年また府廳と詢りて、乞食男女百四十人を舊加州邸に收養したるは、これ實に此養育院の濫觴なりける。後また上野護國寺内に移し、而して此等の諸費用は、皆彼會議所の資金即ち七分金を以て支辨したり。後會議所解散して、府廳は此救養所を直轄し地方稅を以て之を支へたるが、明治十八年度より地方稅の支辨を離れて獨立し、宮内省賜金及其他の義損金等を合せて五万有餘圓の原資を得、其利息を以て一切の經費に充てたり。同院は此改革の前後神田に轉じ本所に移り、明治二十七年、今の小石川大塚辻町の新建築成りてこれに移りたり。又廿三

年より府の管轄を離れて市の所属となり、同時に市内の有望華族紳商を以て委員となして、院務を監督せしむ。現在の委員長は澁澤榮一氏にして、外六名の委員あり。

◎現時の財産、維持法及寄附金

東京養育院には、宮内省よりして、毎年六百圓宛の下賜金あり。また同院の爲めに澁澤夫人外有志婦人の設立せる慈善會の收入金額寄附あり。其他大方有志の臨時寄附金あり、此等下賜金及諸寄附金額は廿九年度の總計四千三百六十五圓餘といふ。此等の收入は一切これを資本金として貯畜するの成規なれば、年々に資本金を増加するのみにして、現に卅年三月の調査にては、通計十五万八千九百圓の多きに上れり。而して院の經費は其利金の内より支出し、豫算額に剩餘を生ずればまた之を基本金に繰り込みて、一切濫費せず。而して基本金の増加と共に、漸次院務を擴張するの方針を採れり。感化部にては、別に基本金募集中にて、既に多額の申込ありと、十万圓内外の醵金は成就すべき見込といふ。

◎院内の狀態

導かれて、院内諸部を観るに、先づ諸般の建築は、流石によく整ひて、收養者の諸病室の如き、長幼男女を區分して、構造は衛戍病院にも劣らぬばかり。完全なる手術室も追々新築の見込みなりといへり。六種傳染病者の一時隔離室もあり、而して此院の病室ばかり、病氣の種類に富めるもの、他に殆どなき事とて、帝國大學より特に數名の醫學士を派して診察治療を加へ、研究をなさしむ。また毎年の東京醫術開業試驗にても、實地參考に供す。たゞ見る蒼白の病者累々として横はるを、一見既に酸鼻に堪へず、殊に小兒病者の如き、實に可憐の極なり。されど彼等野山に斃死すべき不運の者、幸に爰に收養せられて、懇篤なる治療を受くるは、以て彼等の大に感謝する處なるべし。

健康者室も、男女老幼を區別して、小兒はまた七歳上下によりて室を分ち、而して乳養を要するものは、外に出して里あづけとなす。健康者は一躰に勞働に從事せしめ、七歳以上の小兒の爲には簡易小學の設けあり、盲啞者は近傍の盲啞學校

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に通學せしむ。予の院を辭して大塚火藥庫邊まで來たりし時、現にこの盲啞學校通學者數名の互に手を引きて、人の情を蔭と賴める此家路をさして歸るを目擊したり。

老幼は嚴に區別しあれども、なほ今日の組織にては不充分なるを以て、追々は、建築物を分ちて全く隔離するの方針の由にて、こは彼等の育養上、頗る不便あるが爲めなりといふ。實にや去からん。

◎入院者の種類

院內現に收養するもの、老幼男女行旅病者等合して、將に六百人になん〳〵とす。其他なほ救助すべきもの、市內極めて多しと雖も、人員に定數あれば、救の手の及ぼし難きものありといふ。而して三四月以降入院者の數を增加したるは、これ實に物價下落の傾向の影響する處といふ。元來諸物價騰貴すれば、細民皆餓に瀕し死に逼るの狀を來すべしとは、普通に考ふる處なるが、地方村落は然らん、されど東京の如き大都會にては、物價騰貴と共に勞銀も上向きとなるを以て、細民の收入割合に多くして、左迄困難を感ぜざるも、世間不

景氣となり、物價下落となれば彼等の收入從つて減じて、多くの窮乏者を生ず。中流以下と以上との經濟は殆ど相反するの趣きあると如斯し。されば今日入院者の增加も實に此影響によるものにして、自今いよ〳〵不景氣とならば、窮民棄兒ます〳〵增加して、慈善家の手は多々益々勞せざるを得ざるべし。

扨て入院者の種類は、成年者は不具癈疾にして寄るべなきものも多かれども、他の多くは懶惰にして勞働を厭ふもの、才氣なく、特技なきものなり。此種類の遊民なればこそ、實は養育院などに入りて、おめ〳〵と情ある人の養ひを受くるなれ。婦人はこれも藝者、女郞、密娼等の遊民の成れの果なるもの多しとかや。されば憔悴枯爽の果ながらも、昔の容色の思ひやらるゝもの多し。要するにいづれも無氣力の者なれば、犯罪の成績を有する程のものも無し。

小兒は現在收養する處、棄兒百三十餘人、迷兒遺兒五十餘人ありといふ。親々の罪と無情とはた貧苦の故とによりて、此多くの可憐兒は爰に來りて、雨露を凌ぐの所を得て、恙なく生ひ立ちはするものゝ、憫然の情、之を見て禁じ難し、彼

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

等は長じて果して如何になり行くものやらん、受け繼ぐべき家もあらねば、富もなし。赤手社會に打ち出でゝ、如何に生存の競爭に堪へんとはするぞ。救ふべきは實に彼等たり、同院に於ても、實に彼等の救養に重きを措いて、長年者の最早如何とも敎化し難きは、其日々々を安ぜしむるに過ぎずといふ。

吾人の目擊したる處、三人の乳兒の床中に在るを見たり、皆棄兒なりといふ。また數日前逃走して、此日警察署の手にて捕へて還送し來りたる七八歲の一小兒あり、これは彼放火小僧として前日入院せし花村新六等の友達とかや。十四五日間逃走中は、何を食ひ居りしやと尋ねたるに、上野に每日運動會がありて、殘食を拾ひたりと、其塲丈の曖昧なる返事をして、中々一筋繩にてはゆかぬものと見受けられ、いづれ感化部に入れらるべき性質のものと覺えたり。

入院長年者の從事する職業は、彼等もとより氣力なく、手に覺えのなきものなれば、格別の良職もなく、男子は近來炭團製造に專らに、女子は入院者の衣類洗濯等をなす。又學校を卒業したる女子三名計の、現に院内の看護婦として養成せられつゝあるものありといふ。

幼兒は身分正しき相當の貰手あれば與ふることゝなせるが、先づ容貌の好きものより、先き貰らるゝとは、さもあるべきの事なり。

◎院務者と寄附者の種類

安達氏以下數名の院務者は、皆薄給に安んじて、熱心この慈善博愛の事業に從事す。而して寄附者の種類は、貴顯紳士は素より大商人にも多く、また種々の飲食店、藝者屋、貸座敷相塲師、博徒等のアブク金を儲るもの、中にも甚だ多し。月々定まりたるやうに寄附するものもあれば、また親兄弟子供の命日に、生臭坊主を呼んで經を讀んで貰ふよりは、養育院に寄附する方がましなりとして金員物品を寄するものも多し、金員の寄附は、前にいへるが如きの多額にして、衣類食物其他諸物品の寄贈も頗る多く、之を金額に見積れば、一年二三千圓の高なりといふ。神田の一老人の如きは、每年正月の餅は、受負ふたるやうにて、昨年暮にも熨布餅百五十枚を寄せたり。淺草中店の七味唐辛屋の主人なる老婆も度々多額

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の寄附をなす。この人は以前自ら貧困なりし時、諸方の人の恵みによりて暮向を立て、七味賣りをなしながら、金を貯へて三四軒の家を買求め、今は其家賃のみにて安樂に暮す身なれど、なほ商賣に怠りなく、其賣上利益は悉く之を各種の慈善事業に投ずることゝなせりといふ。此如き異數の奇特者の人名は、同院の寄附簿に日々に多く載せられつゝあるなり。

母と共に

花影子

あさ日かゞやく　庭のもに、
つゆをよそほふ　花さうび、
靜にかをる　窓もとに
いのれ幼兒　母とともに。

若葉すゞしき　木のもとに、
雛をあつむる　ゐやとりに、
晝食の米を　與へつゝ、
うたへ幼兒　母と共に。

夕やけ空を　よこぎりて、
塒にかへる　とりのうた、
今日の別れを　つぐるとき
謝せよをさな兒　母と共に。

やまぢ

おなじく

松風に　昔しのびて　越え來る山路。
さらぬだに　堪へざるものを。
こほろぎよ、　なにゆゑ思を　そへやする。

白百合に　涙そゝぎて　越へ來る山路。
さらぬだに　堪へざるものを、
ひぐらしよ　なにゆゑ憂を　そへやする

時文

◎大久保甲東　川崎紫山著　春陽堂版

著者紫山氏小序に曰く

大久保甲東は、大政治家としての度量識畧を欠く、余は深く之に與みせず。然れども端重謹嚴、生れながらの國務大臣として、沈毅果斷生れながらの政治家として建設的の本領を有したるに至つては、則ち之れを多しと爲さゞるを得ずと。

著書の甲東を見るを、如斯く、この見解を以て此書を著す。其性質既に知るを得べきなり。此書素より、甲東の一面を伺ふに足るべしと雖も、其材料に缺けたるが爲めか、先の南洲傳、東湖傳に比すれば、是れ實に片々たる一小册子、何ぞよく甲東の生面を描くを得べきや。されど其一端を窺ふに於ては、方今よろしく讀むべきの甲東傳なりとす。南洲、甲東は、相俟つて維新大業の基を開きたるもの、既に南洲傳あれば、また甲東傳なかるべからず、西郷隆盛傳の著者勝田氏既に久しく甲東傳編述に從事して、未だ稿を成さず、吾人は其速に出づるあらんとを望む。

◎豐太閤　依田百川著　博文館版

豐太閤三百年祭に際して出版されたるものにして、少年世界の臨時增刊なり、依田百川氏の筆に成り、かつて、少年世界に連載されしものなり。豐太閤一代の物語神史として、錦閑の友となすによろし。

◎賴山陽及其時代　故思軒居士遺著　民友社版

曾て噂ありし故思軒居士の遺著、『賴山陽及其時代』は、蘇峯愛山兩氏の校訂を經て、近日出版せられたり。本書批評は、熟讀の後を期して次號に讓る。

◎女界文壇雜俎（本誌〆切迄）

◎母親の心得（蘇峯生）　家庭雜誌第百十六號
◎婦人の力（湖處子）　同
◎日本の出生と男女（河合利安）　統計集誌第二百二號
◎昔がたり（下田歌子）　太陽第四卷第十號

山かづと人はいへども郭公
まづ初聲は我のみぞきく　坂上是則

六々

◎臺灣土人の二女逃に來りて東京明治女學校に學ばんとするや、世說爲に囂し。東京日々新聞の諷林子の如き、狂詩を歌ふて曰く、

◎出蕃地

感心臺灣女學生。欲致學問上京事。本是黑旗軍人娘。生來頓不知文字。其筋勸誘不聞流。兩名打連出蕃地。
評。臺灣女學生。遙々及上京。今後至蕃地。大可導文明。

◎惡少年橫行す　本鄉大火の放火者留五郎または養育院に收養せられし花村新六の話、一度び社會に傳はるや、人々みな之を驚愕せざるはなし。然るに、今日下谷万年町、芝新網等の貧民窟には、棄兒、遺兒等を拾ふて、我兒の如くになし、やうやく長ずれば、之に惡事を敎へて、スリ、カツパラヒ、放火等をなさしめて、甘き汁を吸ふ家の多きとは、刑事巡査等の既に知り盡くす處なりといふ。一の警察にて管內の乞食狩りをなせば、彼等は他管內に入り、他管內また之を追ば、また他に去り、遂には乞食も出來ぬ故、紙屑拾などゝなりて、樣々の惡事をなす。經綸目算のなき乞食狩は、惡少年の數を次第に增加するのとぞ。

◎下谷万年町にバアヤといひて、東京一番の乞食の親方にて百四五十人の子分を有せるおりウといへる老婆は、曾て時事新報には、一種見處のあるものやうに記載し、當時の本誌にも之を轉載したるが、事實は中々の惡婆にて男妾の二人も抱

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

へ、惡少年を驅りて惡事を働かしめ、不義の利を收めて活計を會るものさぞ。

◎乞食の親分、府下にて乞食の親分さいふもの、三十二人計あり、彼等はいづれも掏摸等を働き、中々の惡徒にて、各々幾許宛の子分を有せり。

◎貧民慘状一斑　人心萎靡し、道心頽廢し、天時定まらず、五穀實らず、物價騰貴し、財資缺乏し、貧民飢餓に逼まる　吁、これ何の時ぞや。國内疾苦飢渇を叫ふの民。極めて尠からず、爲に或は小義に狂して、寶を擲くで、貧民に與ふるものあり、また價少きの米穀を買いで、窮乏を賑はす仁人起るあり、慘状　報、屢々之を耳にして、殆ど聞くに堪へず、試みに其一二の實に近來の事に屬するものゝ二三を擧ぐれば

▲岐阜縣揖斐郡西北山の人民困窮の餘、楡の靑葉を摘み、之に少許の米麥を交ぜて、僅に口を糊し、やうやく餓死を免る。

▲上州相生附近の貧民不穩の色あり。

▲陸前鬼首村民一躰に飢餓に迫り、十五歳より十二三歳の少年、父兄に分れ、仙臺市に入込み、商家に雇入を哀願し又は乞食す。

▲秋田縣雄勝郡皆瀬村畑の貧民四十名、窮迫の餘、同郡の救荒豫備粟を竊取して分配せんさ企つ。

▲秋田縣雄勝平鹿仙北三郡の貧民は松の皮、糀藁等を常食さなし、之に和する鹽味は、漬物の殘汁を用ひし爲、近來赤痢病の流行を來たし慘状見るに忍びず

▲野州今市にて六十餘の窶れたる老婆僅に三錢の銅貨を持來りて白米を買はんさす。米屋主人之を憫んで、一升を與へたり。

▲新潟縣下放火竊盜大流行さなり、毎夜各地に二三の放火を見ざるなく、人心頗る洶々たり。

▲東京府下小職中の、近來不景氣なるに物價依然さして下らさるより、夜内職に人力車挽さなるもの多きより夜間却て車代低廉なり。

◎貧民救助　窮状如斯きものあり、從つて又これが救助法を講ずるもの出づ。其二三を擧ぐれば、

▲山形市役所、貧民救助の爲、外國米を買入れて販賣す、奸商、購入券を詐取し、多量に其米を買占めて、高價にて地方へ賣出す。

▲秋田縣知事は、各郡内の貧民慘状あるを巡察したるの結果、各郡長を招集して、之を救助するの方法に關して、長文の內訓を下せり、

▲高知市會米價の大に騰貴し、貧民の飢餓に逼まるを察し、滿場一致を以て、適宜救助金支出を可決す

▲越後の豪農市島德次郎氏、貧民救助の爲、無限の工事を起して、月々百名に賃米を給し、また安米を賣出し、救助金を寄附す。

▲陸奥野邊地の豪家、先の多額納稅者議員野村氏、貧民の爲、白米一升十五錢さ定め、三ヶ月間一人一日三合宛を賣渡す、其損失凡そ二三千圓なり。

⊙洋犬の相場　窮民到る處に哀哭すさ雖も、飽食暖衣逸居の輩、之を顧みず、多々ますく奢侈の弊に陷る。其一證さして聞くならく、曩には小形の洋犬、令孃方に寵愛せらるゝを流行して、從つて賣買相場も驚くべき程の高價なりしが、此頃はまた狆の飼養流行し、尤も品拂底にて、胴短く斑紋美しき上等品は十五圓以上二十圓內外の相場にて、なほ其以上は際限なき由。

◎日本に於ける新舊基督教會事業　伊澤修二氏が、條約改正實施會の依囑により、我國に於ける現今新舊基督教會の信徒數及其事業等を調査したる結果は左の如しさいふ。

◎新教宗派別	三四
同　信徒	三八、三六一人
（内日本基督教會派一〇、五三八人）	
同　外國宣教師	六八〇人
同　各種學校	一六七
右生徒	一〇、八七八人
同　神學校	一七
右生徒	二二三人
同　日曜學校	八三七
右生徒	三〇、六二七人
◎天主教信徒	五二、一七七人
同　外國宣教師	九六人
同　各種學校	七五
右生徒	三、九九〇人
同　神學校	一
右生徒	四二人
⊙希臘教信徒	二三、一五三人
同　外國宣教師	一人
同　各種學校	四
右生徒	一九九人
同　神學校	一
右生徒	十一人

◎岐阜縣下某町　の藝妓いづれも客前に歌ふて曰く「赤十字社員は心から可愛い金持社員さ人がいふ」さ。これを聞く粋客、續々さして赤十字社に加入すさ。

蓋しこれ町役場員、赤十

蓋しこれ町役場員、赤十字社員募集の附󠄂として、藝妓一同を招集して、內訓を下し、この俗歌を謠ふべきを命じたるものといふ。赤十字社員募集戰爭の弊、爰に至りて極まれり。ナイチンゲールはたヂユナン知るあらば、必ずや天を仰いで長嘆せんのみ。

◎風俗壞亂　の爲其筋より發賣を禁止すると、裸体畫より及ぼして、またく卑猥なる小册子に及ぶ。

◎日本　は世界に供給するに醜業婦を以てすとは、世界一般に認識する處なり。凡そ六大陸中の開港場、我醜業婦の足跡を印せざるの地殆どあるとなきの狀あり、特に亞細亞海岸、太平洋諸島、濠洲、南北米等を以て尤も甚しとなす。官府の未だ交通を開かざるの地にも、彼等の之に赴いて、國辱を鬻ぐと既に久しきものあり。吁、君子國、愛國者の多き國、大和魂の國の民よりして、此等の醜を出す。國威の隆盛よりも寧ろ醜業婦を以て、世界に名あるは實に三省して深く恥つべし。空言以て日本の國粹を誇らんとするものゝ如きは、蓋し狂愚に過ぎたりといふべし。この大禍害、これを如何して救濟せんや、官民共に未だ其策を知らず、策なきも宜なり、國民の道德、既に久しく地に委せるものを、如斯にして彼を處せんとするは、火を以て火を救はんとするに似たるかな。これ、無主義、無信仰、空威張なる國民が、當然に負ふべきの報なり。而して此狀に慨するものなきに非らずと雖も、寧ろ國民の多くは、之を聞いて、物珍らしき話の種となす位に止まるは、國を重ぜず、同胞を愛せず、特に道心の甚だしく缺乏せるが爲ならずや。支那人は出稼して、金を儲け、日本人の出稼するものゝ過半以上は、淫風を吹かせて、國辱を計る、嘆ずべきかな。

◎國民　の道德は地に委し、而も外其醜を流す。爰に至つては、我國は、實に世界の最劣等國たるの感あり。然るに如斯くにして、なほ空しく漠然國粹と稱して之を誇つて、民心を驕らしめんとする、忠義愛國の徒朝野に充つ、噫矣。

◎ビスマーク公　の八十三誕辰祝祭は、去る四月一日を以て擧げられたり。今や考偉人グラツドストーン逝いて、歐洲の名物は比公に留まりたり。公よ自愛せよ。

時報

◎萬國聯合婦人俱樂部副會長の來遊並に演說　米國には國內到處に婦人俱樂部なるものありて、文學、教育、宗教、社會、政治の研究等、凡て社會改良に盡力し、これが會員たるものは、多くは一家の妻たり、母たり、而してあらゆる此諸俱樂部は世界中の多くの婦人會と氣脈を通じて、ゼ子ラル、フエデレーシヨン、オブ、ウイメンス、クラブ（萬國聯合婦人俱樂部）を組織せり。此萬國聯合婦人俱樂部の副會長ブリード夫人は其夫と共に保養觀光の爲、世界を漫遊して、數日前東京にも立寄り、二三ヶ處の婦人會より招かれて演說をなし、現に去る五月二十二日には大日本婦人教育會の招きに應じて、華族女學校幼稚園にて『米國婦人事業に付きて』といふ演說をなし、村井知至氏これを通譯ありたり。同夫人は其後二三日にして既に本國に向つて出發したり。因にいふ、夫人は七人の子の母として、手づから之を教育し、其餘隙を以て、公共事業に力を盡くして、頗る他の重んる處となれりといふ。また其家は有數の財產家なりと聞く。なほ我國政府にても、ブリード夫人の勸誘に應じて、來る六月のデンヴアー大會に出席する爲、二人の婦人を派遣するの議あり。其撰に當れるものは華族女學校教授津田梅子及同校囑托教授渡邊峯子の兩女史なり。

◎近衛公爵の慈音　公爵近衛篤麿氏には故近衛老公追吊の贈品挨拶の贈物を廢して、金千圓を各種の慈善事業に寄附せらるゝとなり、大須賀亮一氏の瀧の川學園にも金百圓寄附せられたり、又原胤昭氏の出獄保護會へは金二百圓を寄附せられたりといふ。

◎同志社女學校近況　同校は近來生徒數も增加し、また同志社男學校の各科專門教師及講師の教授を助くるありて、現に哲學、文學、歷史、經濟等夫々專門の學科の教授を受けつゝある生徒あり、全く男子と同樣の高等教育を授くべき器關は備はれりといふ。高等科の卒業生は高等女學校、高等小學校及地方私立女學校などより招聘申込むもの多しとぞ。

◎大倉喜八郞氏夫妻の銀婚式　府下の豪商大倉喜八郞氏夫妻は、五月二十三日其結婚後二十五年の銀婚式祝典を自邸に於て擧行し、貴顯紳士を招待して、饗宴を張りたり。又席上祝意の爲私財五十萬圓を投じて商業學校を設立する計畫を述べたり。

◎英國女皇誕辰　此五月廿四日は英吉利國女皇兼印度女皇帝ヴイクトリア陛下の第七十九回誕辰に相當したれば、總理大臣以下各大臣次官、陸海軍將官等朝野の貴紳百餘名、並に各國公使領事等、英國公使館を訪ふて祝詞を述べ、夜會あり。また東京、橫濱在留英國人間にも各祝意を表したり。

◎貴婦人園遊會　五月五日、芝離宮の御苑にて、內外貴婦人の園遊會を催されたり、皇族、各國公使、勅奏任官等の各夫人方來集ありて、猶當日は、皇后陛下より、特に一同へ、立食の御饗を賜はりしといふ。

◎奇特　山梨縣に住む窪川友吉の祖母いねといふは、今年九十年六ヶ月の老媼なるが、身体頗る强健にして猶矍鑠たり。こたび、一切人手を藉らずして白絹を織り上げ、畏こき邊りへ献納せんとて、專ら其の事に餘念なしといふ。

◎孝女受賞　島根縣知事は、五月十三日一孝女を賞するに左の褒狀並に金員を以てす。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

石見國邑智郡長谷村　大石スヱ

資性温順父母に事へて孝、夫に事へて貞、明治十三年父死亡し同二十一年母亦死亡す其の生前に在りては奉養看護到らざる所なし之れより先き夫眼疾に罹るや看護を盡せりと雖とも遂に明を失し生計益々窮乏を告げ艱楚備さに嘗め一意病夫を扶け傍ら農耕抄紙に精勤し曾て公税年貢を怠らす能く一家を保持すると十有餘年一日の如し郷閭擧けて其篤行を稱す洵に奇特とす仍て爲其賞金三圓五十錢下賜す

◎貞女の鑑　紀州牟婁郡鮎川村中岡龜次郎妻小むめと云ふは、珍らしき貞女にて夫龜次郎が去明治十一年四月より病に罹り今以て就蓐し居るを廿年間一日の如く懇到に看護し、節儉力役して家計を維ぎ、醫薬の資を支へ、窮乏の中に在て其操を變ぜざるは、奇特の至なりとて今度同縣知事より金八圓を賞與せられたり。

◎娼妓慈善會　熊本遊廓の娼妓等、慈善婦人會なるものを起して、毎月熊本貧兒院に金員を寄附す。

◎諸女學校卒業式補遺

●和歌山縣師範學校女子部卒業式　は三月三十日擧行、卒業生は十一名。

●香川縣師範學校女子部卒業式　は三月二十六日擧行、卒業生二十名。

●彦根町立高等女學校第三回卒業式　は三月廿五日擧行、卒業生二十三名。同校は目下生徒三百五十五名内本科生三百名、補習科生六名、技藝專脩科四十九名ありといふ。

●毛利高等女學校第一回卒業式　山口町なるに在りて毛利公爵家の設立にゝるゝる同校は三月廿六日擧行したり。

◎明治女學校入學臺灣土人の二女學生　兼て報じたるが如くに、臺灣渡來の二學生は、既に馬關まで着せし處、巖本明治女學校長、態々同地に赴きて、之を出迎へ、廿六日午後、恙なく、學校に入れり。黄驚は臺南仁壽鋭街第二番地住にて黑旗軍人の女、吳笑は同大媽祖街第七十三番地住にて商人の女なりといふ。

海外女界

◎支那の女子高等學校新設計畫　此女學校といふは、主として支那上流社會の女子の爲に建設するものにして、其校則中には、「纒足は古來の惡習慣なるが故に入學者は互に此惡風習を癈するやう勸告すべき事」「現在にては餘義なく纒足者も入學を許可すべしと雖も數年後には斷然之を謝絕する事」「本校の德育は儒教を礎とす、故に祭壇を設けて孔夫子を祭る」等の個條あり。校内には二人の舍監ありて女生の監督をなす、其一人は外國婦人にして、他の一人は支那婦人なり。他にまた四人の教師ありて、内二人は主として外國語を教ふ。學科は種々にして範圍廣く、先づ綴字、文典、讀本等を初歩とし、其後歴史、地理、哲學及び算術等を授く。應用學科としては數學法律、及醫學等の專門科あり。專門科は一科に限り撰修すべく、但し醫學又は法律を學ぶものは、數學上の適當なる智識を要す。また以上三科の外に、將來教育に從事する志望者の爲に師範科を設備するの見込なり。また校費餘裕あらば紡績、織物、畫學等の手藝をも授くべしといふ。

◎矯風會員裁判長を辭職せしむ　米國メーン州の婦人矯風會員は、會長スチーブンス婦人以下、其に同州の裁判長フオスターの不道德漢なるを以て之を退け、州の法廷を刷新せんとしたる運動は首尾よく成就して、フオスターは其職を退き、彼等の希望に適したる良好の裁判長、新に就任せり。

◎米國婦人矯風會員等は　四月初旬の基督復活節を以て、故會頭ウイラードの爲、最後の葬祭を營みたり。

◎米國バルチモーア　の一婦人會にては、外國に遊學する數人女學生の爲、獎學金資本として、五萬弗を寄附したり。撰に當るべき女學生は、才能品性、健康共に良全なるものたるを要す。

◎婦人公證人　米國ヴアルヂニヤ州知事タイラーは、此程婦人の公證人たるとを許可したり。

◎瑞典の貴族夫人看護婦たらんとす　瑞典國のオスカー公の夫人ヴイチベルヒ伯爵夫人は、倫敦に於て看護學研究中なり。こは、夫オスカー公の亞弗利加に於ける傳道事業を補佐せんが爲の目的なりといふ。

◎パーチル母死す　一時は愛蘭國無冠の王とまで呼ばれたる故チヤルス、スユワート、パーチルの母、デリア、チー、スチユワート、パーチル夫人は、過る三月二十六日、誤つて火傷したる爲、遂に死亡せり。

◎老看護婦の意氣　南北戰爭の際從軍看護婦として殊功を奏したるメリー、エス、ヂスト夫人といへるは、目下華盛頓に住居せるが、米西戰爭いよ〳〵開くるの時は、再び看護婦として從軍せんと意氣込み居りたりといふ。

◎米國聯合婦人協會第四回大會　は來る六月にコロラド州、デンヴアに於て開會せらるゝとなり、各州より代表者として、數百人の婦人はこれに列席すべく、就ては之が爲に、臨時滊車を發せらるべしといふ。

◎米國ボストン府　の故ジユリア、ダヴリユー、ジエームス夫人といへるは、其遺産の殆ど全部に相當する五十四萬二千〇六十九弗を、同府なる美術博覽會と工業學校とに寄附したり。

◎女子の希臘古文學研究の爲めの獎學金　希臘國アデン府なる亞米利加古典學研究學校にては、故アグチス、クラヽ、ホピン孃の紀念の爲、其家族の寄附にかゝる一年一千弗の利金ある獎學金資本を得て、米國女子にして、古典學研究に熱心にして一年以上同學校に在りて、希臘に留學せる女子數名に競爭試驗を經ずして授與するとゝなれり。

◎ウイラード紀念校堂　米國ミソリー州レバノン市なるハミルトン、ホワイト大學の役員等は、故ウイラード女史紀念の爲に、煉瓦石造の大校堂を新築して、之をフランセス、イー、ライラード館と稱するとに决したり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

謹告

弊社義昨年九月以來、婦人社會學研究の爲、各地の女風俗を精細に調査せんと企て、よりて幾多の問題を提出して、大方有志諸氏の報告を冀望致候處、該調査研究の事たる女子教育の進歩と且は又社會万般の改善との、據りて以て行くべき良正なる方針を案ずるに、甚だ必要なるとと信じ候を以て、今般特に主筆櫻井鷗村を全國各地に巡回爲致、實地其取調に從事せしむるとに決し、即ち其第一着として、來六月上旬以降、中國及九州地方へ向け出發せしめ候に付ては、同地方有志諸氏の何卒此目的の爲優渥なる御賛助を賜はり、何かと同人へ御教導御加へ被下候やう、斯道の爲、懇願此事に御坐候敬白

明治三十一年五月　女學雜誌社

東京裁縫女學校々長渡邊辰五郎著

裁縫教授書

全部定價金一圓　三冊郵税金八錢

取次販賣　東京巢鴨村庚申塚　女學雜誌社

社會學社會問題及社會政策の評論

社會雜誌

第十三號　五月刊行

社說

非鐵道國有

雜纂

風俗の壞敗を如何せん……加藤弘之○社會研究の方法奈何……呉文聰○社會學と史學……布川靜淵○觀勢微言……山形東根○貧民問題一斑……觀潮𥩟○(東京市民區の警起を促がす)○大坂府下全躰の最近細民生計の調査○人種競爭と移民問題……得一居士

觀勢

工業勞働社會の形勢と失業者保護……各地貧民の狀態及其救濟法……(一)先づ細民の食物を聞け(八縣)……(二)救濟法其他の規約(六縣)……昨今の矯風問題……近來の傾向●海外の醜業婦の近況●賭博公開と官設富籤●同盟罷工一束……英國に於ける同盟罷工の累年比較結果……四種の會合消息(社會學會●社會學研究會●貧民研究會●社會政策學會)……飛花落葉(十數件)

教界

東京の宗教界(二)……希聲　東京遊學資金一斑……神樣と惡化小僧……宗教界時事十數件……

新刊

社會論壇　宗教論壇　宗教哲學●信仰の友●教育實驗界●時論

●定價一冊十錢郵税一錢六冊前金六十五錢

發賣元　麴町區下六番町六　社會雜誌發賣所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎女學雜誌近刊數號に對する諸新聞紙の批評

◎第四百六十號

社說に曰く支那人果して保守か曰く手堅き實益を收めんさするは其形ち保守に似るも其實着實堅牢の進歩なりさ師弟微妙の感應師弟間微妙の感應なからざる可からざるを論ずる也其他米國一女生の田舍日記裸體畫論孔夫子楚些錄婦女の夜學等ありチト文學に心得ある女學生には恰好の雜誌なる可し　（佐賀市佐賀自由）

社說支那人果して保守か論說師弟微妙の感應其他裸體畫に關する評論あり此種の雜誌中稍々高尙なるものなり　（山口防長新聞）

淡粧優美の好雜誌なり支那人果して保守かさの社說は純然たる男子の政治論たるの感あれども保守さ進歩の議論必ずしも女子に要なしさせず、女學欄には師弟微妙の感應米國留學一女生の田舍日記、佛敎主義の婦人會、裸體畫の不可評等其他有要の記事少なからず　（佐賀市西肥日報）

◎第四百六十一號

本號の口繪は哀別離苦の圖にして曾佛禊寺紀念碑面の彫刻を復寫したるもの社說には小學卒業後の女子及び今時の男子等三讀の價あり其他家庭、史傳に皆な有益なる文字ならざるはなし殊に閨秀の手になりし文に至りては錦上更に花を添ふるの思ひあり　（米澤市米澤新聞）

社說さして揭げられたる『宗敎的東方問題』さ題せる一篇の論文は口繪の寓意斷さ相待て實に該雜誌社の眞髓を表白せしもの其他女學、評論、敎育、隨感、雜錄、時文、片々時報等有用の文字多しさいへども殊に『情死の哀を想ふ』の論文は見るべきの文字少なしさせず實に近時有數の好雜誌管に女子のみならず男子も亦讀まざる可らず　（和歌山市紀伊每日新聞）

◎第四百六十二號

大に誦すべし宗敎的東方問題の一大論文諸ぞ夫れ沈痛にして眞摯なる花影子の情死の哀れを想ふ熱腸沸々紙上躍ありさ想ふは非か如今滔々さして阿世の徒筆を取文を賣る輩比々皆然り而も萬綠叢中に紅一點の紅涙を吐露する夫れ本誌か　（札幌北海道每日新聞）

女學雜誌中の高齡にして記事も整備せり本號の重なる目次は宗敎的東方問題、女學校內の男性機先論雜居後の準備其他なり　（福島町福島新聞）

宗敎的東方問題は立論卓拔時節柄最も好讀すべきもの、女學校內の男子ウイラード女子を吊す女工統計機先論等面白き節々多し要するに本誌の如きは這種雜誌中一種の異彩を放つもの　（鳥取市因伯時報）

社說に宗敎的東方問題女學に女學校內の男性、ウイラード女史を吊す外一篇評論に機先論等あり敎育、隨感、雜錄、時文、各欄看るべきの文字多し就中雜錄欄に收めたる花影子の情死の哀を想ふ(上)は大文字なり　（甲府市山梨日日新聞）

◎第四百六十三號

口繪に故萬國婦人矯風會頭ウイラードの肖像あり社說「不景氣は人心の衰相のみ」は巧みに時弊を穿ち一時の附景氣（其都祭の類）は空腹に酒を飮むが如し醒めては一層の衰弱なるべしさ云ふが如き好譬喩さ謂つて可なり。非華の「歐化主義再び流行せんさする歟」亦頗ぶる味ひ饒し　（名古屋市扶桑新聞）

口繪には近頃物故したる米國の女丈夫故万國婦人矯風會々頭フランセス、ウイラード孃の肖像あり史談の中に孃の評傳を收む其他家庭及び隨感の諸欄には注目すべきもの多し本誌は實に進歩主義女學欄の旗頭たるに負かざるなり　（高知市土陽新聞）

◎第四百六十四號

熱情を以て奇警の言を出だすは女學雜誌なり本號には社說に「誠實卽卓識」「逆風孤𠮟」評論には「新島襄及福澤諭吉」なり其他雜錄女學隨感皆な敎育家爲政家の參稽に爲すに足るべきもの獨り女學に志ある者の爲めのみならず　（岡山市山陽新聞）

社說には誠實卽卓識、逆風孤𠮟あり評論には新島襄及福澤諭吉あり其他女學、敎育、隨感、雜錄、時文諸欄材料豐富女學界一派の說を聞かんさ欲するものは本誌を讀むべし　（高知市土陽新聞）

社說には誠實卓識、逆風孤𠮟あり評論の新島襄及福澤諭吉は兩氏の日本の敎育界に及ぼせし感化を說き得て面白し其他女學敎育欄あり　（鳥取市因伯新報）

誠實卽卓識（社說）新島襄及福澤諭吉（評論）可憐楚々の愛嬌（女學）敎士獨嘯（敎育）愚夫愚婦の心（隨感）情死の哀を想ふ（雜錄）其他女子必讀すべき記事多し　（福島町福島新聞）

誠實卽卓識の一篇最も見るべし其他新島さ福澤を評せる愛嬌を論ぜる條に本誌の特色を發揮せり　（豐前中津二豐實業新聞）

◎第四百六十五號

社說無學の與、永久の身代長年の辭命等最も欣ぶべし家庭講義文藝の諸欄讀むべきの文字又多し　（福島町福島民報）

社說には「無學の與」「永久の身代」あり今の文壇上僅に一異光を放つ家庭には「無用の用」「女房役」等あり又た雜錄には鵑村氏の「かなしき妻」「姑の心」等あり千紅萬紫さいふべし　（岡山市山陽新報）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●神經病者實驗せられよ

拜啓陳は小生義永年神經痛に罹り起臥も不自由にて特に歩行に困難仕候處先般貴殿御發賣に係る速康散三廻り分御送付に預り漸く本日にて服藥を了り候處實に名の如く速効顯はれ殆んど病氣を忘れたるが如く候就ては尚服藥仕度候に付三廻り分代價金壹圓並に郵送賃八錢合せて壹圓八錢送付仕候に付右に對する藥劑御送付有之度此段御禮旁御依賴申上候也

明治三十一年
三月十二日

石見國邑智郡阿須那村字都井
青木春治

久保田庄左衛門殿

●神經性腰痛 速康散七廻りにて全快す

拜啓陳者拙者義一昨秋來神經性の腰痛坐骨坐經痛にて歩行困難種々と加療候得共同症漸進苦心罷在候折柄又候腹膜炎を兼ね呼吸塞迫心季動進腹部膨滿全身浮腫等の症を相加へ屢々療養仕候得共藥石の奏効相顯はれず既に不歸の鬼籍に入らんとせしに諸方の新聞にて貴家御發賣の速康散の効能を見出し早速貴店へ御送藥を願ひ七廻分服藥仕候處前陳の病症全く回復仕拙者は申すに不及家内一同大に歡喜仕候乍遷延此段書中を以て御禮申上候也

明治三十一年
三月十七日

廣島縣安藝國山縣郡八幡村東八幡原
野田玄策

久保田庄左衛門殿

●如此實驗諸君の禮狀山の如し一々枚擧に遑あらず

●此速康散は一名そげぬき藥とある故世間往々脹滿脚氣子宮病血の道リウマチス等に効能の有無御疑ひの方なきにしもあらず然れ共右の如く既に數年來難治の該病を全治ならしめたること數千人其實は本家に來り患者諸君より送付せられたる謝狀を見られ尚ほ疑ふ人は先方へ照會せられよ藥價は二日分拾錢一廻參拾五錢三廻り壹圓四十五日分貳圓十廻り分參圓で名高い藥店に皆有ます遠國の注文は六廻までの賃八錢で小包郵便にて直ぐ送ります▲近頃にせ物あり本家久保田名義と雲形に久の字の商標に御注意下されべく候

速康散本家
東京市西洞院通五條南入少柳町
久保田庄左衛門

●緊急廣告

地方難患者を救助せんとする**一寺住職**及び請賣希望の諸君は金五圓以上御送金の上至急御申込あれ本舗は相當の良法を以て特別割引若くは一時施藥の上將來永遠に御家督と相成候樣可致候也

明治廿五年三月十五日遞信省認可

（四六六）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY